

2020 年度 豊岡市環境報告書

コウノトリと暮らす豊岡の環境



▲巣立ち後、親鳥に餌をねだるコウノトリ幼鳥（2020 年 6 月 撮影）

2021 年 12 月

豊岡市市民生活部生活環境課

地球温暖化防止対策室

******* 目 次 *******

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について（P1～4）

第2部 「目標とする姿」への取組み状況（P5～38）

第3部 豊岡市の環境の状況（P39～50）

第4部 市の取組み実績（P51～64）

**第5部 前年度環境審議会意見の反映状況(市の取組み)
（P65～72）**

**第6部 2020年度の環境に関する取組みについて
豊岡市環境審議会の意見(今後の取組みに向けて)（P73～78）**

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について

■豊岡市環境基本計画について

2016(平成28)年度に見直しを行い、第2次環境基本計画を策定しました。

第2次環境基本計画の体系図は、次頁のとおりです。計画の基本理念・基本方針をもとに、10年後に到達すべき10個の「目標とする姿」を描き、それを実現するための具体的な方向性と行動指針を定めています。

■環境報告書について

この「豊岡市環境報告書」は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年、環境の状況や計画の取組み状況等について、豊岡市環境審議会の意見を付して公表するものです。

今回の環境報告書の取りまとめにあたっては、第2次環境基本計画の10個の「目標とする姿」への達成状況を、それぞれ「よくがんばりました」・「この調子でがんばろう」・「もっとがんばろう」の3段階で評価しました。

豊岡市環境基本計画の体系

■基本理念（第2章）

計画を進めるにあたっての基本的な考え方は次のとおりです。

- 1 豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- 2 良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- 3 地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

私たちは、次の六つの合言葉をいつも気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちがあたる」
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

■目標とする姿（第3章）

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像。

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます
- ② 里山が様々な利用され、関わる人が増えています
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています
- ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています
- ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

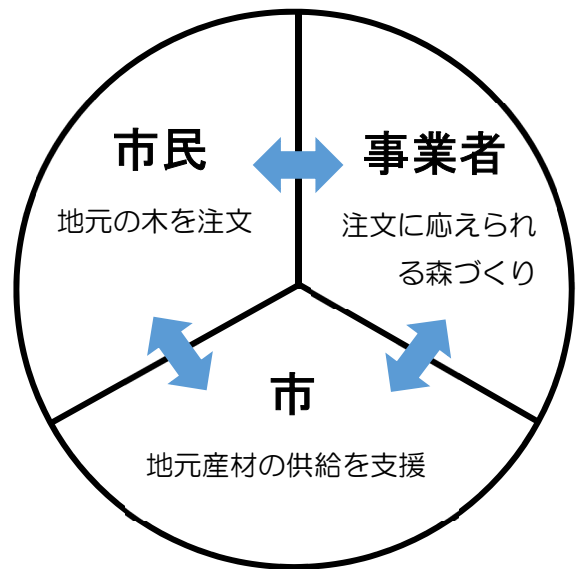
■基本方針（第2章）

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献

【注釈】 第2次豊岡市環境基本計画は、2017（平成29）年度から10年間の計画です。
「目標とする姿」は、2027年度の豊岡市の姿を想定しています。

取組みの方向(下記)に掲げる一つひとつの課題に関して、市民、事業者、市が連携してみんなで取り組みます。



【来訪者に求めること】

来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。

■取組みの方向（第5章）

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取組みを進めていく方向を示す。

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

関連する目標像

（目標像①～⑩）

- 1…①②⑤⑦⑩
- 2…④⑤⑦⑧⑩
- 3…②③④⑤⑦⑩
- 4…①②③⑤⑦⑩
- 5…①②③④⑤⑦⑩
- 6…①⑧⑨
- 7…④⑤⑥
- 8…④⑤⑥⑦
- 9…①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 10…③⑤⑦⑩
- 11…④⑧
- 12…⑧⑨
- 13…②③⑩
- 14…③⑤⑦⑩

第2部 「目標とする姿」への取組み状況

■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、2020 年度を含む「主な指標の変化」(2007 年度～)と 2020 年度の特徴的なトピックスを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動が中止になりました。そのため、「参加者数、利用者数、実施数」などの評価は適さないことから、2020 年度においては評価の対象から外しています。

■目標とする姿（第3章）

- | | |
|--|---------|
| ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます | ・・・p.7 |
| ② 里山が様々な利用され、関わる人が増えています | ・・・p.10 |
| ③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています | ・・・p.13 |
| ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます | ・・・p.17 |
| ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています | ・・・p.20 |
| ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています | ・・・p.23 |
| ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています | ・・・p.26 |
| ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、
1人あたりの排出量が徐々に減っています | ・・・p.29 |
| ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、
再生可能エネルギーの利用も増えています | ・・・p.32 |
| ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています | ・・・p.35 |

■取組みの方向

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

目標像①

手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【主な取組みの方向】

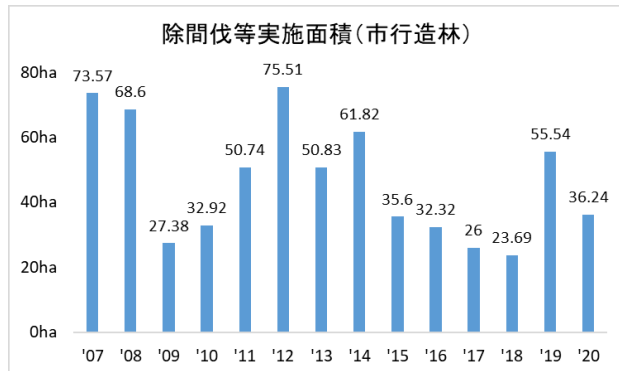
(1) (4) (5) (6) (9)

【具体イメージ】

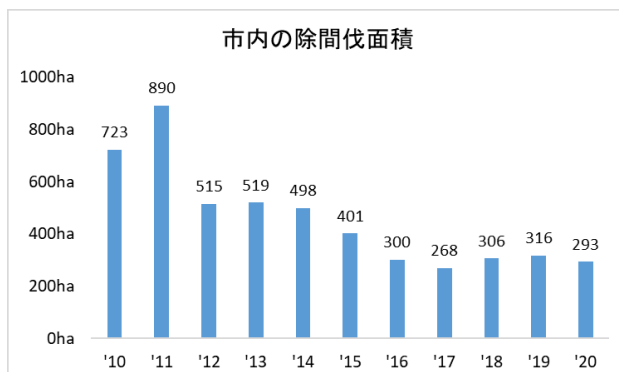
スギやヒノキの林は保育され、広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／ペレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

(1) 除間伐と植樹



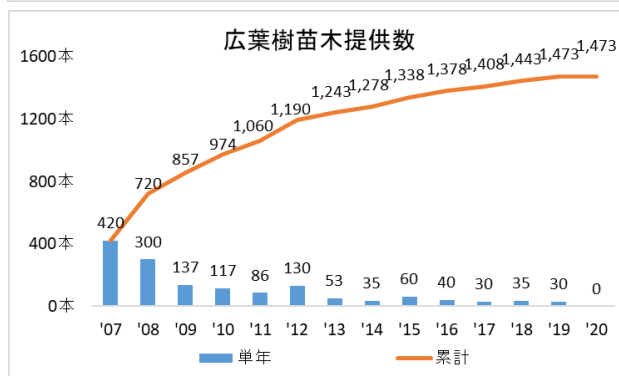
・下草の生えた豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。



・市、ひょうご農林機構、民間すべての分収造林を含みます。

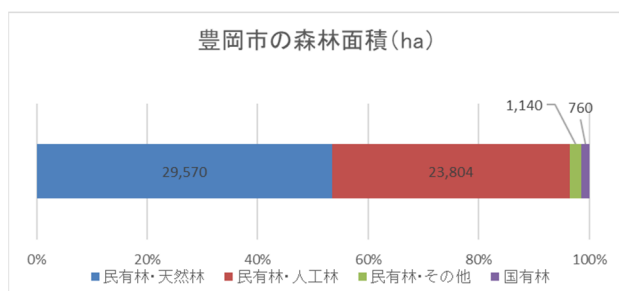
【分収造林^{ぶんしゅうぞうりん}】

造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林



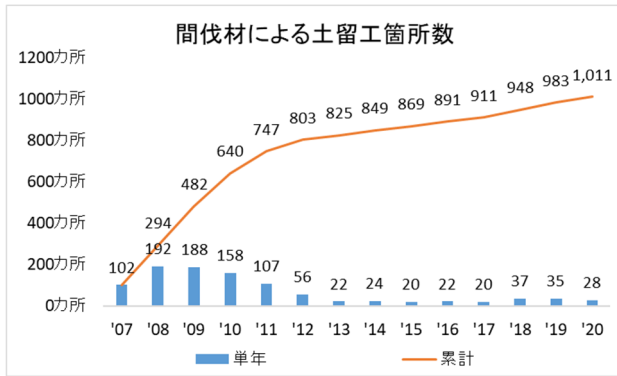
・針広混交林化に向けて、広葉樹の植樹を進めています。落葉等で土壌が肥沃になるとともに、下層植生の成長を促し、土壌浸食等の防災効果が高まることが期待されます。また、種組成が豊富になったり、伐期がずれることで長期収入にもつながります。

《所有別森林面積》

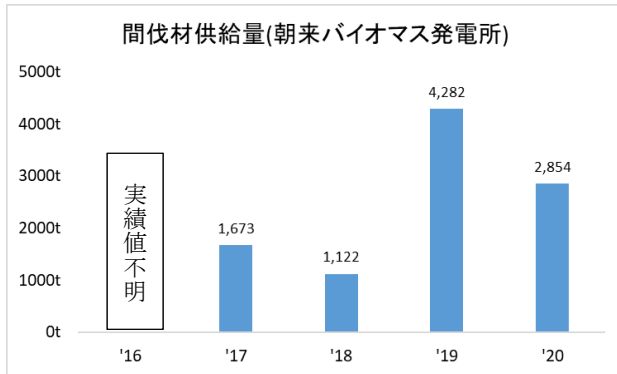


・豊岡市の森林面積のうち、約9割が民有林となっています。その内、コナラ林などの天然林が約50%、スギ・ヒノキ林などの針葉樹林が約40%となっています。【出典：兵庫県林業統計書(2021.3月発行)】

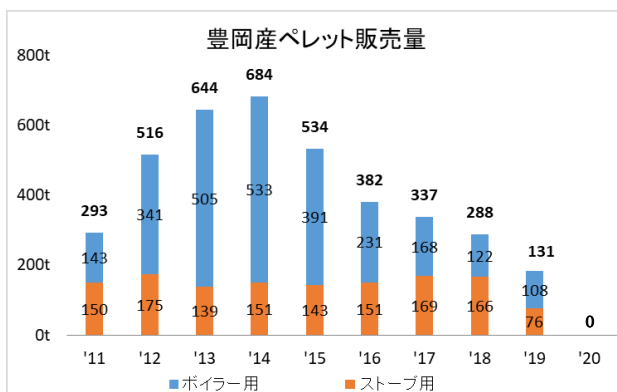
(2) 間伐材の利用



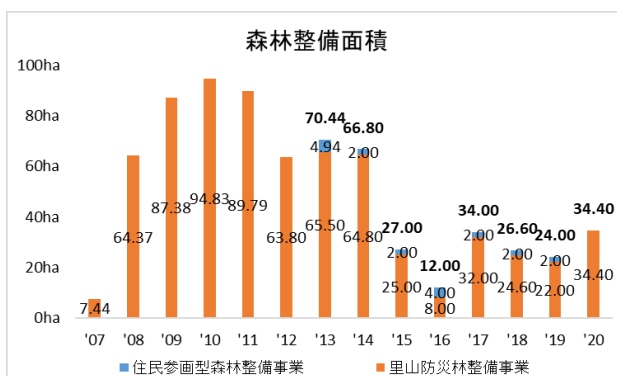
- ・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。



- ・北但東部森林組合から搬出された原木やチップが、朝来市の「バイオマスエネルギー材供給センター」を通じて、朝来バイオマス発電所(2016年12月運転開始)に供給されています。
- ・2019年度は、ペレット原料として市内でストックしていた間伐未利用材を加えて供給したため、一時的に供給量が増えています。
- ・2020年度は通常の供給体制に戻り、朝来バイオマス発電所との協定に基づく割当て量以上の供給実績となっています。
- ・2019年8月末を以てペレットの生産を終了し、間伐未利用材利用の主軸が朝来バイオマス発電所への供給に切り替わりました。

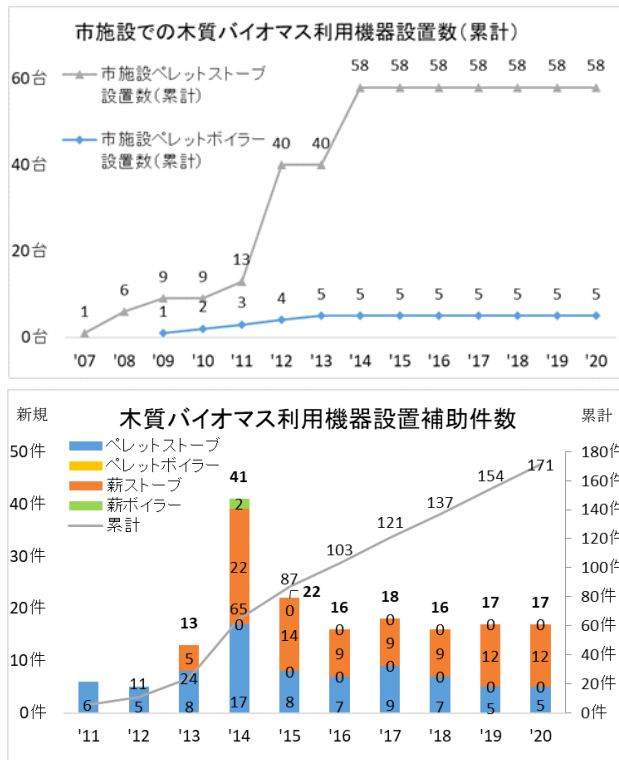


(3) 森林の整備



- ・住民参画型森林整備事業は、竹林、枯れ松、危険木伐採等により、集落の安全を確保する1カ年事業です。
(事業主体：兵庫県、実施主体：区、地域)
- ・里山防災林整備事業は、人家裏山の凹型斜面の崩壊、崩落を防ぐため、危険木伐採や簡易防災施設(丸太柵工等)整備を行います。2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します。
(事業主体：兵庫県、実施主体：林業事業体)
- ・2015年から豊岡市以外の地域でも里山防災林整備事業が進んだことによる予算分配のため、豊岡市での里山防災林整備面積が減少しています。

(4) 木質バイオマス機器の利用

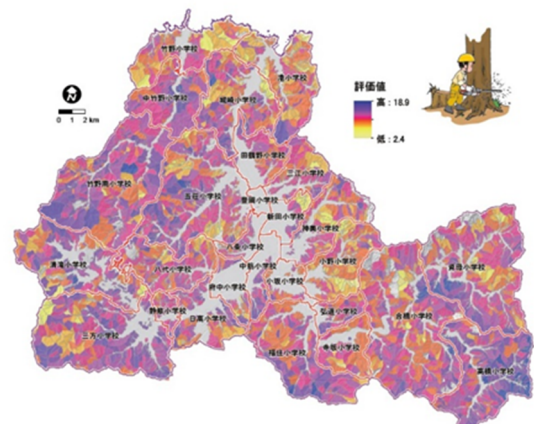


- ・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利用するストーブ、ボイラーの利用促進を進めています。個人住宅、区の集会所、事業所を対象に補助しています。

持続可能な林業で森林をマネジメント

Topics

温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため 2019 年度に創設された「森林環境譲与税」は、CO₂を吸収する森林の間伐等の整備事業を主な使途としながら、木材利用促進や森林管理を担う人材の育成事業等にも活用できる目的税です。現在、地方自治体へ段階的に交付されており、最終的に豊岡市には「年間約 1 億円」が継続交付されます。市は、その使途をホームページで公表しており、2020 年度は「バイオマス利活用のための機械設備の購入補助」や「森林整備の優先順位を検討する基礎資料の作成」を行いました。また、戦略的に林業を推進することで、森林の持つ多面的な機能を発揮させることを目的とした「林業ビジョン」の策定を開始しました。2021 年度には委員会を立ち上げ議論を進めます。持続可能な力強い林業と里山の再生に向けて「1 億円」をどのように活用していくのか、具体的かつ豊岡らしさのあるビジョンを策定し、効果的な森林整備を目指します。



図：森林重要度評価の結果

2 2020 年度評価

評価

- 住宅への木質バイオマス利用機器の設置が広がりつつある。
- バイオマス発電所へ間伐材を順調に搬出している。

この調子で
がんばろう

目標像②

里山が様々な利用され、関わる人が増えています

【主な取組みの方向】

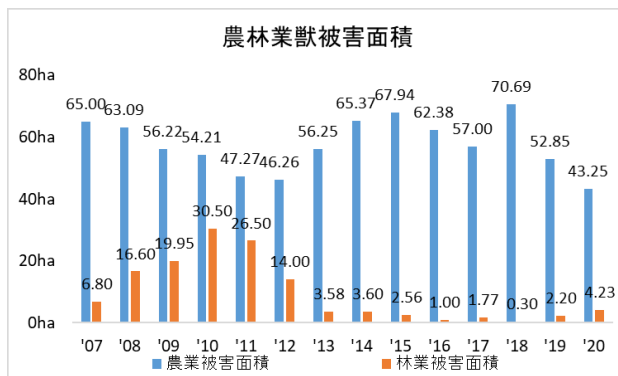
(1) (3) (4) (5) (9)
(13)

【具体イメージ】

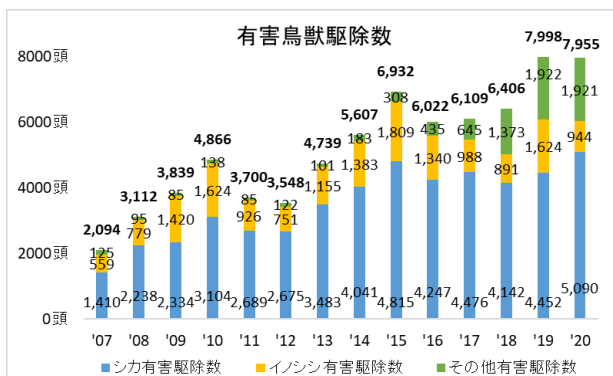
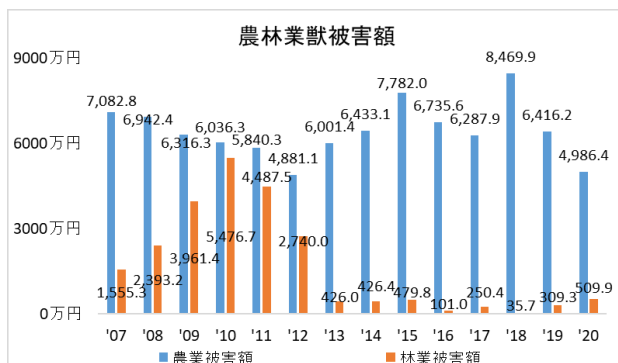
安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

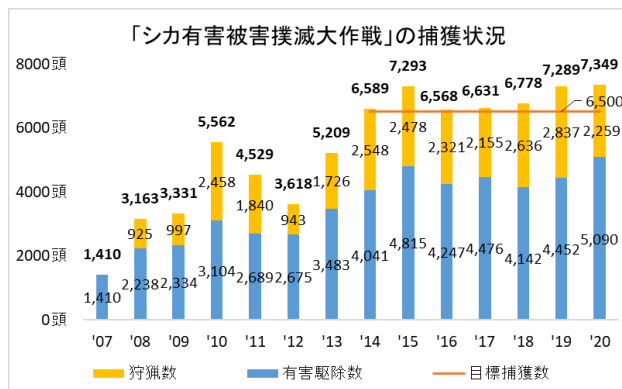
(1) 有害鳥獣対策



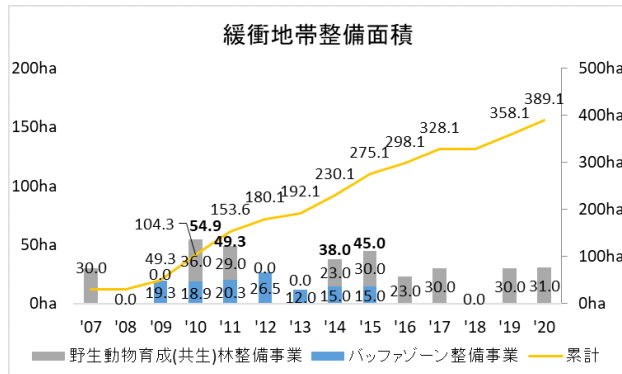
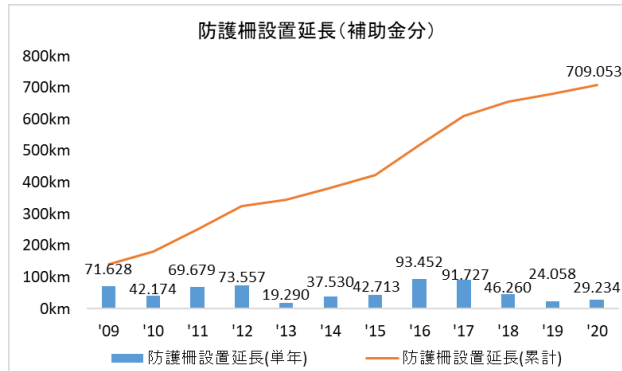
- ・林業被害のほとんどはシカによるものです。
- ・農業被害は、シカやイノシシの他にサルなどの小動物によるものもあります。
- ・山奥から人里近くに被害が広がってきています。
- ・農家アンケートのため、家庭菜園等の被害は含まれません。



- ・「有害鳥獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。
- ・「その他有害駆除数」には、タヌキやアライグマ、ヌートリア、カワウなどが含まれます。
- ・シカの数減少してきているものの、ヤマビルやマダニの生息域や個体数が増加しており、今後被害が増加していくことが懸念されます。

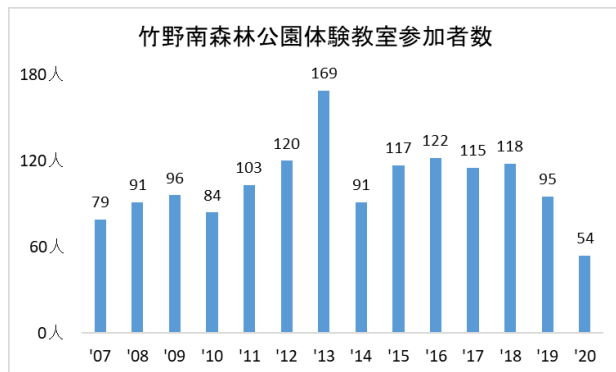


- ・市では、2014 年から年間捕獲数 6,500 頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。
- ・「狩猟数」は、狩猟期(11 月～3 月)に個人が捕獲した頭数です。
- ・「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当者で編成)が、有害獣として捕獲、駆除した頭数です。
- ・2020 年度は降雪量が多かったため、狩猟数が減少しています。

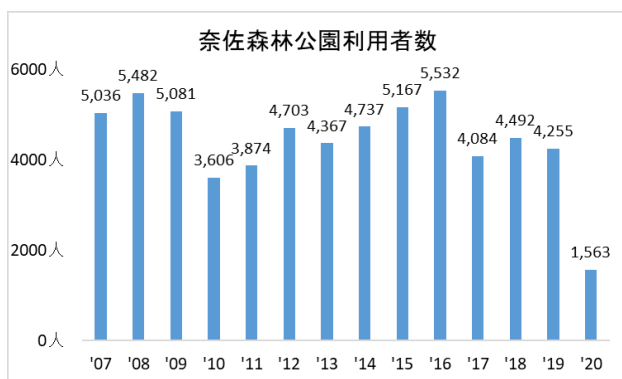


- ・このグラフの緩衝地帯(バッファゾーン)は、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約 20m の見通しの良い地帯を言います。
- ・バッファゾーン整備事業は 2009～2015 年度まで実施(事業主体：豊岡市)。
- ・野生動物育成(共生)林整備事業は、緩衝地帯と集落防護柵を一体整備する 2 カ年事業で、1 年目に調査、2 年目に整備します(事業主体：兵庫県)。
- ・2018 年度は調査だけのため実績がありません。

(2) 森林公園の利用

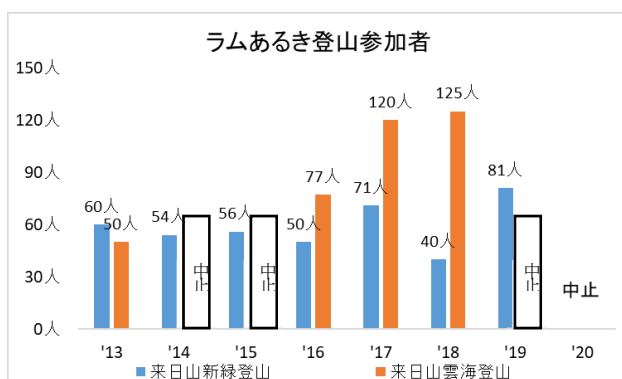


- ・竹野南森林公園では、毎年季節に合わせた体験教室を実施していますが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、参加者数が減りました。



- ・奈佐森林公園においても、新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、利用者数が減りました。

(3) 森林ツーリズム



- ・2012年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録された翌年から、来日山の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベント「ラムあるき登山」を、5月と10月に地元主催で実施しています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、新緑登山、雲海登山ともに中止となりました。

イベント「森の博士になろう！」開催

Topics

2021年3月20日、市立加陽水辺公園で森林体験イベント「森の博士になろう！」が開催されました。公園に隣接する森の中を散策しながらのネイチャーゲーム、森の中で見つけた葉っぱや木の実などを使ったクラフト体験など、普段なかなか体験できない森の中での活動を通して、自然の中で遊ぶ面白さを味わいました。今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、地元の中筋小学校の子どもたちだけの参加になりましたが、次回は他の学校からもたくさん子どもたちが参加できるようになるといいですね。



2 2020 年度評価

評価

- シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500 頭を達成しており、有害駆除数が初めて 5,000 頭を超えている。
- 有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業被害面積や被害額は減少している。

この調子で
がんばろう

目標像③

使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【主な取組みの方向】

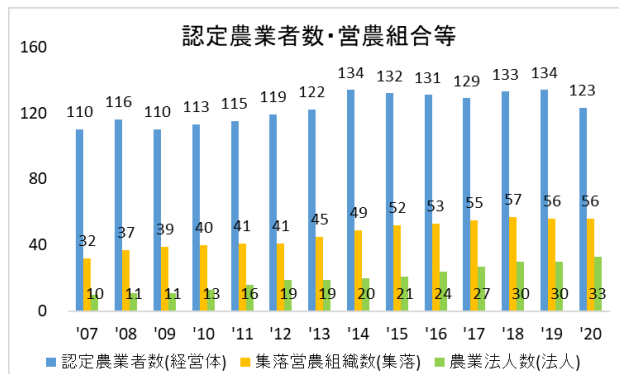
(3) (4) (5) (9) (10)
(13)

【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田など様々な使われ方で農地が活かされています

1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

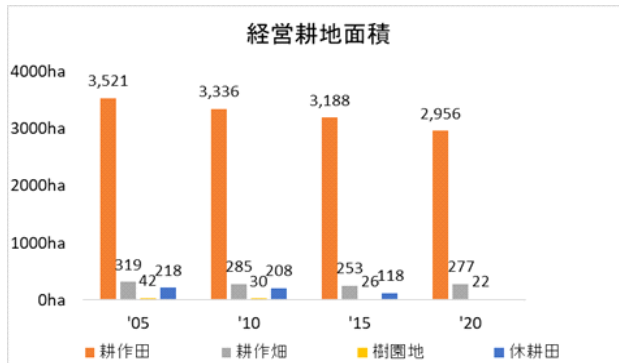
(1) 豊岡の農業の現状



- ・就農者の高齢化や減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

【認定農業者】

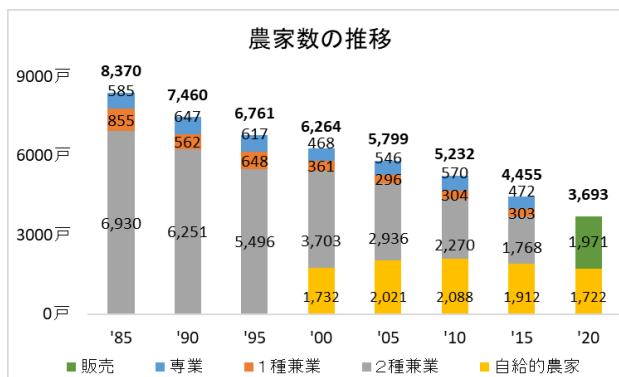
農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人



【経営耕地面積】

農家が経営する耕地の面積

2020 年から集計方法が変更。経営耕地のある経営体の数と経営耕地面積を把握（休耕地面積は把握せず）



- ・2000 年以降の専業、兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専兼業別調査が簡素化されました。
- ・2020 年から集計方法の変更に伴い、専業、兼業別の把握が廃止となり、「販売農家」の枠組みでの把握となっています。
- ・高齢化や担い手不足により農家数が減少していると考えられます。

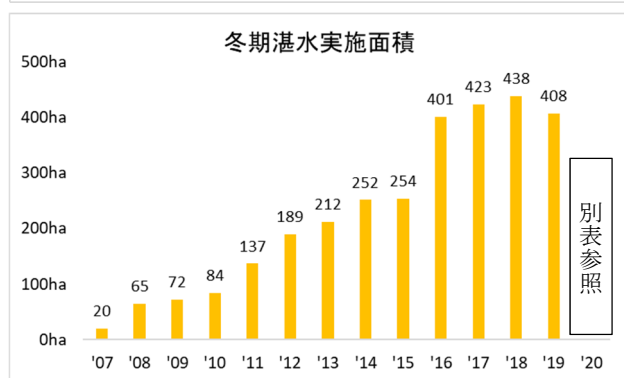
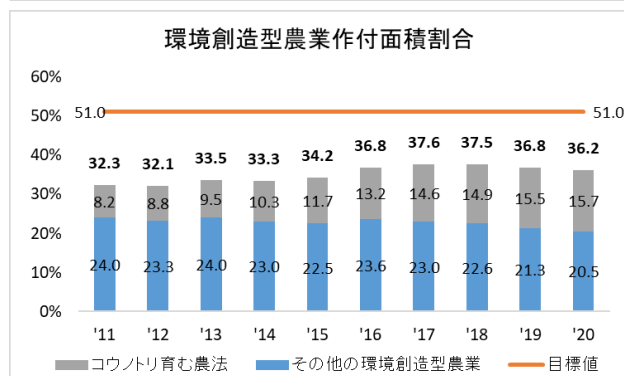
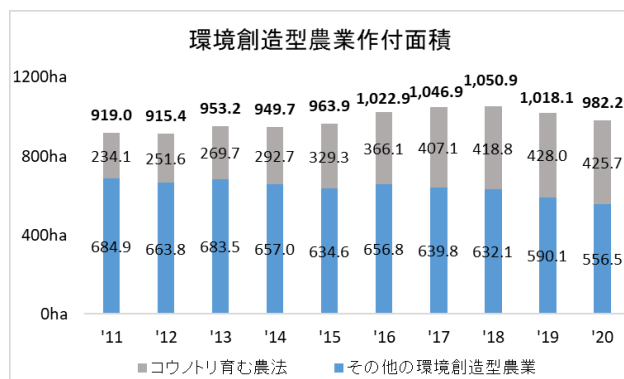
【第1種兼業農家】 農業所得を主とする兼業農家

【第2種兼業農家】 農業所得を従とする兼業農家

【販売農家】 経営耕地面積が 30a 以上または農産物販売金額が 50 万円以上の農家

【自給的農家】 経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家

(2) 環境にやさしい農業



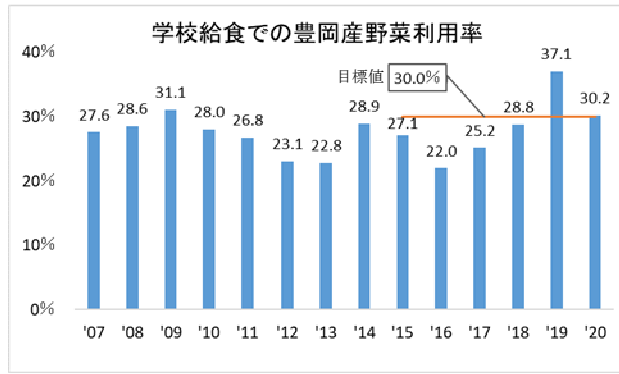
- ・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方法を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬、化学肥料 50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。
- ・集落営農への移行や大規模農地の集約、気象条件の悪化や獣害被害など、様々な要因により、作付面積は減少傾向にあります。

- ・冬期湛水は、冬にも田んぼに水を張ることです。生きものが豊かになり肥料分を含むトロトロ層(2～5 cm)ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。
- ・2020 年度から、冬期湛水実施面積のデータ元である環境保全型農業直接支払交付金の制度変更に伴い、集計方法が変更となったことから、実施面積が減少しました(別表で記載)。

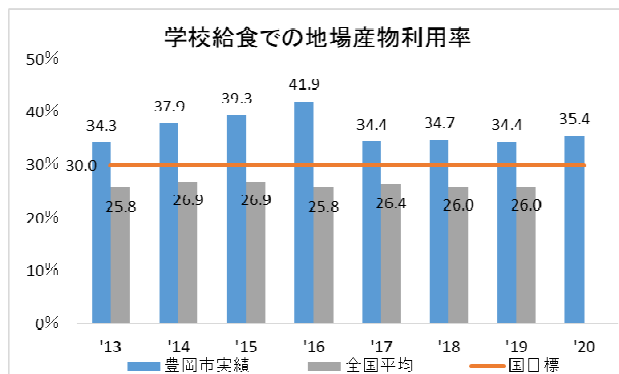
《2020 年度の冬期湛水面積》

年度	2020 年度
面積	338ha

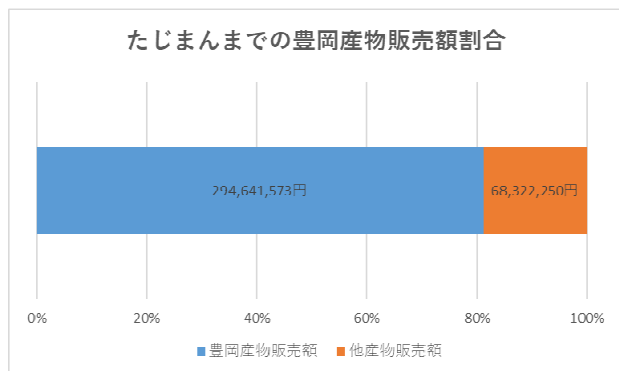
(3) 地産地消



- ・豊岡産野菜は、「国民健康・栄養調査(厚生労働省)」の野菜の定義に則っています。いも類、果実類、きのこ類は含まれません。
- ・利用率は重量で計算しています。
- ・地元生産者がピーマンなどを寄付する、児童たちが自分たちで作った野菜を調理して食べるなどの取り組みも行われています。
- ・2016年度から、週5回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を利用しています。
- ・2015年度から、30%以上の利用を目標に設定しています。

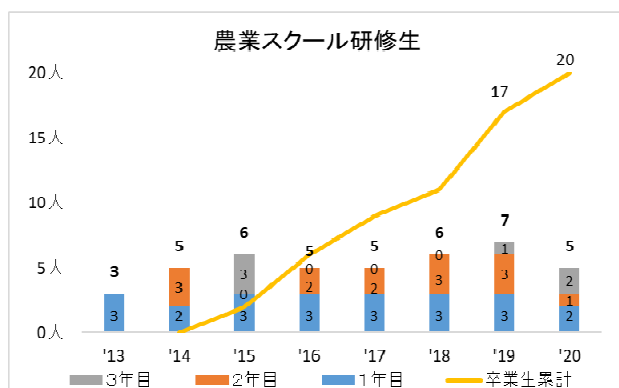


- ・農林水産省の「第3次食育推進基本計画」で学校給食における地場産物を使用する割合30%以上を目標にしています。
- ・地場産物は県内産食材を指します。
- ・利用率は品目数で計算しています。
- ・この調査は、6月と11月のそれぞれ5日間を対象に行われています。
- ・2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国平均が算出されていません。



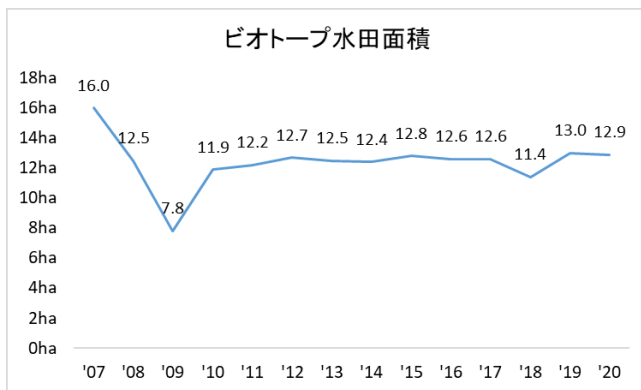
- ・2020年度のたじまんま豊岡店における豊岡産物販売額(生産者からの委託販売分)割合です。野菜や花、加工品、お米が含まれます。

(4) 農業スクール研修生



- ・新規就農希望者が、就農に必要な生産技術と経営能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。
- ・卒業生は、雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。
- ・2020年度、卒業生の累計が20人となりました。

(5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトープ(生きものがすむ場所)水田」として市と管理委託契約を結んでいます。
- ・ビオトープ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積は、目標像⑦(p. 28)に掲載しています。

Topics

環境保全型農業と生物多様性

環境保全型農業である「コウノトリ育む農法」の水田と、慣行栽培の水田の生きものにどのような違いがあるのか、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科が調査、研究を行いました。

調査の結果、コウノトリ育む農法の水田は慣行水田より生きものが多いことがわかりました。特に、農業にとって益虫となるアシナガグモの仲間をはじめ、ゲンゴロウの仲間やコオイムシの仲間などの生息に貢献しており、コウノトリ育む農法が生物多様性を保全しているといえます。一方で、トノサマガエルが生息するには大きな違いがないこともわかりました。コウノトリの主要なエサでもあるトノサマガエルの数を増やすためには、中干し延期などの取組みと併せて、水田の周りに越冬できる環境が必要だと考えられます。



(引用：内藤和明、福島庸介、田和康太、丸山勇氣、佐川志朗(2020) 豊岡盆地の水田におけるコウノトリ育む農法の生物多様性保全効果. 生態学会誌, 70:217 - 230)

2 2020 年度評価

評価

- 学校給食での地場産物利用率が目標利用率を達成している。
- たじまんまでの委託販売における豊岡産物販売額割合が8割を超えている。
- ▲経営耕地面積が減少している。

この調子で
がんばろう

目標像④

あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な取組みの方向】

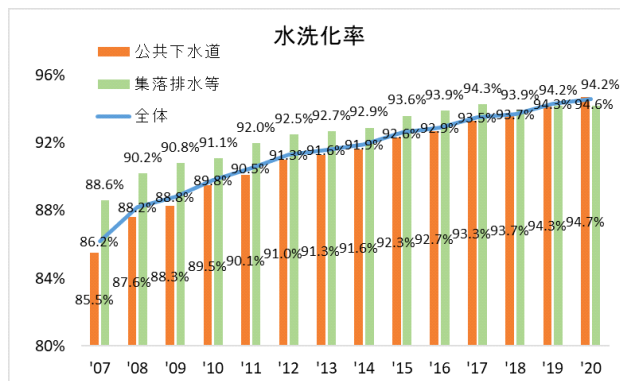
(2) (3) (5) (8) (9)
(11)

【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

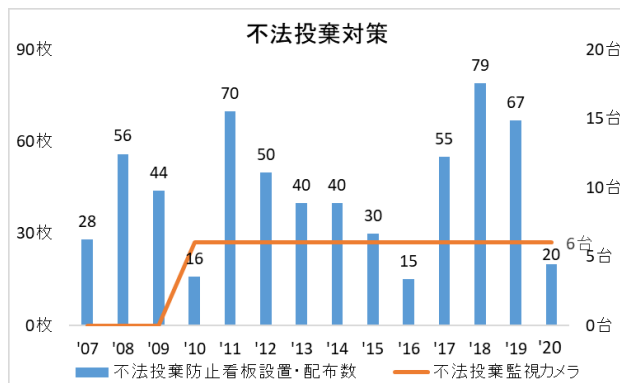
1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

(1) 川の水質保全



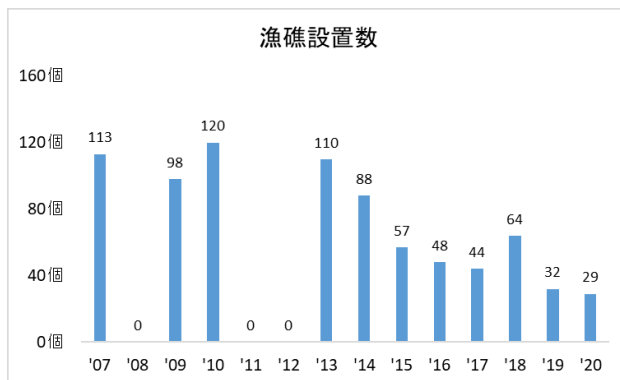
- ・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標にしています。

(2) 不法投棄対策

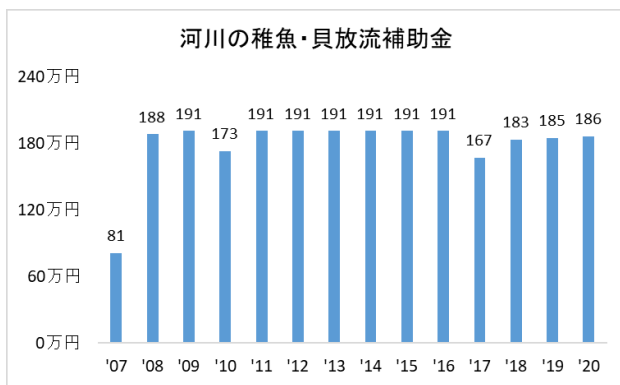


- ・不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や峠などに設置しています。
- ・家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが捨てられています。

(3) 水産資源保全

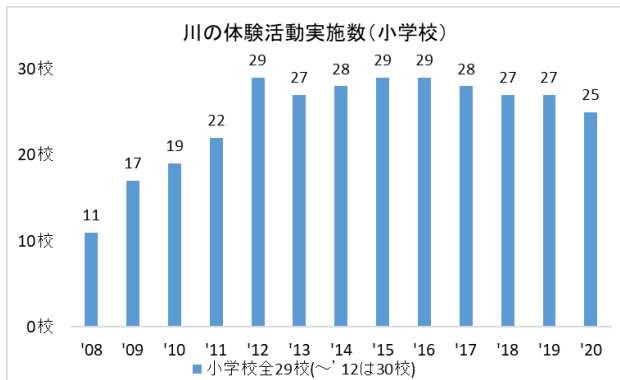


- ・漁礁は、魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される魚類のすみか(巣)や集まる場となるものです。
- ・2019 年度は漁礁設置効果調査が実施されたり、設置する漁礁のサイズが大きくなったことにより設置数が減っています。
- ・2020 年度も 2019 年度と同様の漁礁サイズです。

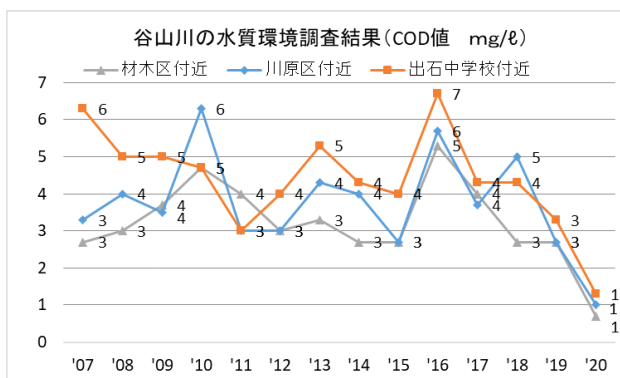


- ・豊岡市が、円山川漁業協同組合(アユ、ハマグリ)と竹野川漁業協同組合(アユ、アマゴ)に補助しています。

(4) 子どもたちの体験活動等



- ・2007年度に兵庫県下で「環境体験学習(小学校3年生対象)」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。
- ・学校での活動の他、民間団体等も体験活動を実施しています。



- ・国土交通省が毎年実施している「身近な水環境の全国一斉調査」に併せ、2007年度から環境ネット出石が子どもたちと一緒に谷山川の水質調査や生きもの調査を実施しています。
- ・CODとは水中の有機物残存量を示すもので、値が低いほど水質が良いということを示しますが、直前の天候や水量によって数値に影響が出る場合もあります。

(5) 清掃活動

川沿いや海水浴場のある浜などで、地域住民やボランティアなどによる清掃活動が毎年行われています。河川では、「円山川菜の花の会」などによる清掃活動が、海辺では港中学校、港西小学校、港東小学校などによる地元をあげての清掃活動が行われてきましたが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、大勢での清掃活動が軒並み中止となりました。そんな中でも谷山川を育む会・まもり隊による清掃活動や、豊岡総合高校インターアクトクラブ主催の竹野海岸漂着ごみ回収が行われるなど、自然環境をまもる取組みと同時に、暮らしを見つめなおす学びが地道に、しっかりと行われています。ボランティアで清掃活動をしてくださる市民や事業者がいることで、海や河川がきれいに保たれています。回収されている方々を頼るだけでなく、すべての人が【ごみを出さない】という努力をすることも求められます。

《これまでの活動例》

川清掃

清掃場所	活動主体	活動実施日
円山川河川敷	円山川菜の花の会	コロナウイルス感染症対策のため中止
円山川	円山川城崎ボート協会	同上
谷山川	谷山川を育む会・まもり隊	毎月 10 日
	豊岡市商工会出石支部	年 1 回

浜清掃

清掃場所	活動主体	活動実施日
気比の浜、田結の浜	港中学校、港西小学校、港東小学校、港認定こども園、区長会等	コロナウイルス感染症対策のため中止
竹野海岸	竹野海岸ボランティアクラブ 豊岡総合高校インターアクトクラブ	3 月 20 日

「高校生ごみ拾い甲子園」優勝！

2020 年 11 月 22 日、「海と日本プロジェクト スポ GOMI 甲子園 2020」の決勝が開催され、県大会で優勝した豊岡総合高校インターアクトクラブが参加しました。3 人 1 組のチーム制で、制限時間内にゴミを拾い、量と質でポイントを競います。東京会場で 12 チーム、リモート会場で 11 チームが参戦したこの大会。インターアクトクラブチームは、なんと 50kg ものゴミを拾い、リモート会場部門で見事優勝しました。インターアクトクラブのゴミ収集能力のすごさが際立つ一方、それだけゴミが多いという現状を突きつけられたのも事実です。市民一丸となって清掃活動に取り組んでいく必要があります。



(写真提供：豊岡総合高校インターアクトクラブ)

Topics

2 2020 年度評価

評価

○子どもたちの川での体験活動が定着している。

▲大雨の後、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている。

▲不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない。

もっと
がんばろう

目標像⑤

コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な取組みの方向】

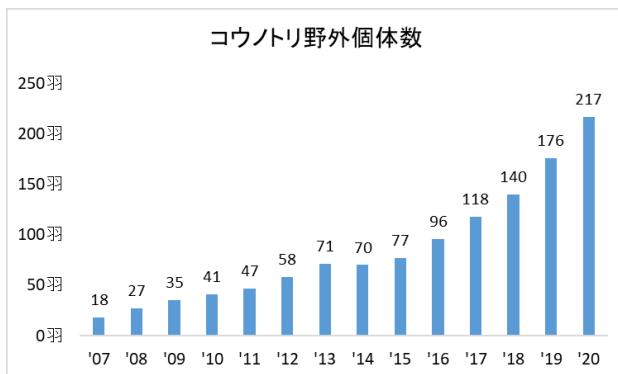
(1) (2) (3) (4) (5)
(7) (8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

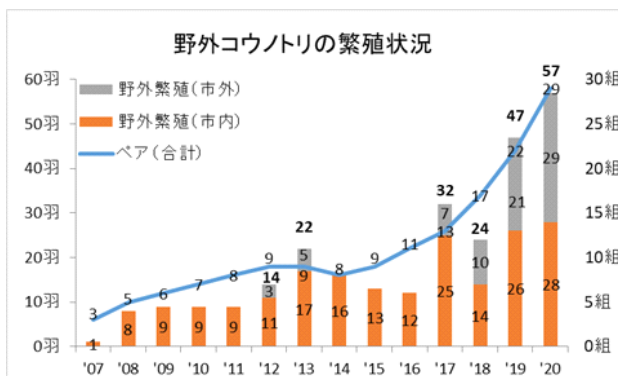
コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

(1) 野外のコウノトリの状況

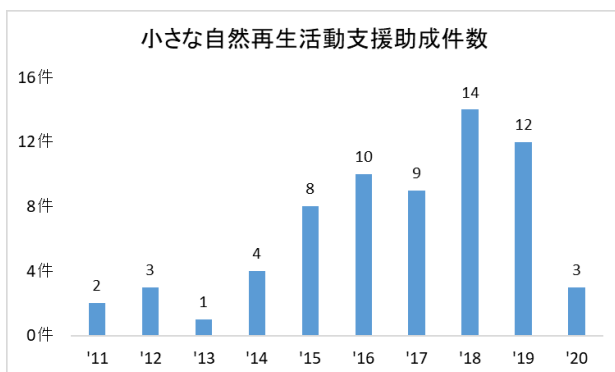


- ・2005 年の試験放鳥から、野外コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地を訪れています。2017 年度には、47 都道府県全てでコウノトリの飛来が確認されました。

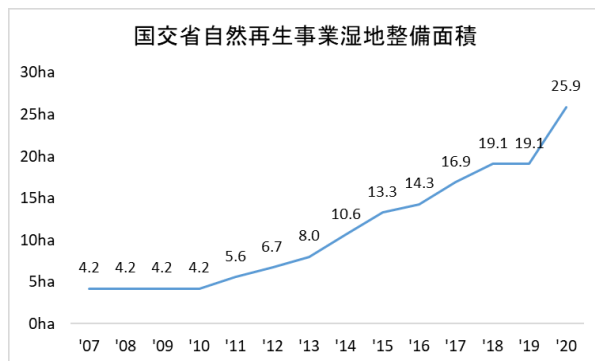
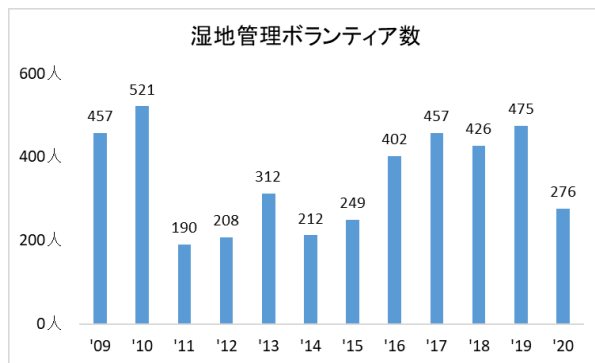


- ・2020 年度の野外繁殖地(市外)は、養父市、朝来市、福井県越前市、京都府京丹後市、綾部市、鳥取県鳥取市、島根県雲南市、徳島県鳴門市、栃木県小山市です。

(2) コウノトリが生息できる環境の整備



- ・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生活動(ビオトープづくり、外来生物の除去など)」を支援しています。
- ・2019 年度から、補助上限額が 10 万円から 5 万円に変更になりました。
- ・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策による活動自粛により、申請件数が減少しました。



- ・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、保全・管理作業を進めています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、ボランティアの活動自体が少なく、参加者数も減少しました。

- ・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。
- ・2020年度は、正確な湿地整備面積の算出により数字が大きく増加しています。

Topics①

「グリーンインフラ大賞」を受賞！

2021年3月、豊岡市の「コウノトリ野生復帰」をシンボルとした自然再生」が「第1回グリーンインフラ大賞」で、最も評価の高い「国土交通大臣賞」を受賞しました。グリーンインフラとは、河川や森林、水田といった自然環境が持つ生きものの生息場としての機能や洪水を抑制する機能、地球温暖化を緩和する機能などを活用しながら、適切な土地管理や生活の質の向上、地域振興を目指すものです。「自然を守り、活用することで、人の生活がより良くなる」。グリーンインフラの概念は、これまで豊岡市が取り組んできた「コウノトリ野生復帰」そのものです。

これからも、みんなで一緒に「自然との共生」を意識した取り組みをしていきましょう。



「豊岡市のレッドデータ生物」

NPO 法人コウノトリ市民研究所が冊子「豊岡市のレッドデータ生物」を作成しました。豊岡市に生息している鳥類や魚類、昆虫類や植物まで、様々な希少生物の生息状況等をまとめています。豊岡市のレッドリストが作られることで、豊岡市の生きものを知る指標となります。かつては、多くの人が身近な自然に関する知識を生活に必要なものとして有していましたが、有用な木や草の名前は忘れ去られ、いつの間にかどこにでもいた種が絶滅の危機に瀕してい

ます。それらの種を含め、生きものを絶滅させないためにも、今後もモニタリング調査を続けることはもちろん、多くの人が身近な自然環境を意識し、保全していくことが求められます。



2 2020 年度評価

評価

- 野外で暮らすコウノトリの個体数が増加している。
- 円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。
- ▲外来種駆除が進んでいない。

この調子で
がんばろう

目標像⑥

様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【主な取組みの方向】

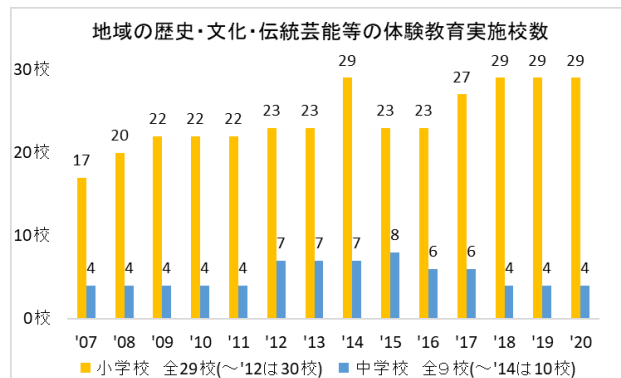
(7) (8) (9)

【具体イメージ】

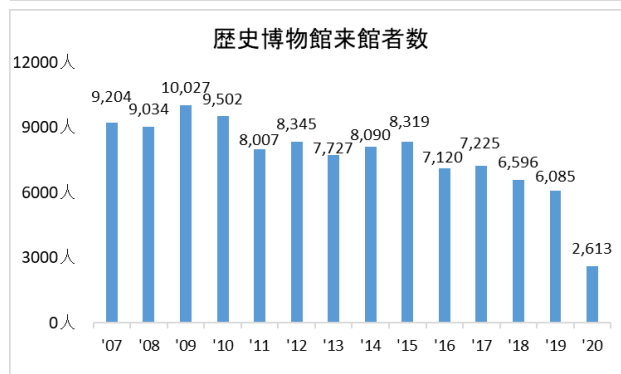
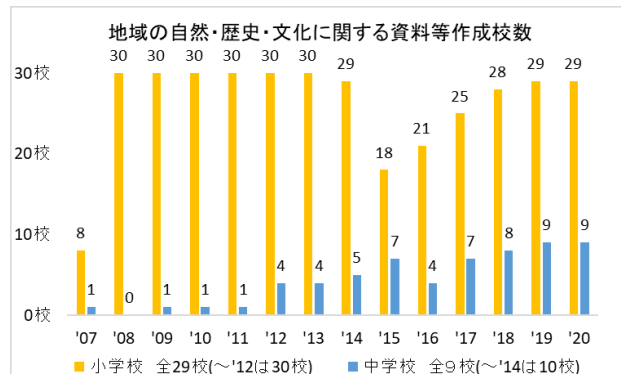
地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

(1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、“地域を知る”という視点を意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」に体験教育に取り組んでいます。



・2019 年 4 月 26 日にリニューアルオープンしました(改装工事のため、2 月 20 日～4 月 25 日まで休館)。
・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、来館者数が減少しました。

歴史博物館「但馬国府・国分寺館」では、公開講座を実施しています。

年度	2019 年度	2020 年度
公開講座	5 件	5 件
参加人数	147 人	28 人

(2) 豊岡市の無形民俗文化財

第3部「豊岡市の環境の状況」(p. 47～48) 参照

(3) 地域コミュニティ

2017 年度から、地区公民館が全てコミュニティセンターに変わりました。それに伴い、旧地区公民館区域を単位とした新しい地域コミュニティが、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行います。地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取り組みです。

＜地域コミュニティの行事事例＞

各地域コミュニティでは、地域の歴史・文化等に関する行事や広い世代の交流行事が行われています。

出典：2020 年度地域コミュニティ組織活動事例集

【中竹野地区コミュニティ「自然学習教室」】

中竹野地区の自然の恵みを生かした「川遊び」、「竹水採取、竹でパン焼き」、「寺院の境内で肝試し」、「しめ縄、ミニ門松づくり」「バードウォッチング」、「お宝石探し、石磨き」、「火起こし体験」、「アニマルトラッキング」「ジオサイト見学」等、四季を通して様々な体験教室を開催しています。

大人も子供も「初めてすることばかりでとっても楽しい」と毎回参加を楽しみにしてくださっている家族もあります。今後は地域外の人にも参加を呼びかけ、中竹野の素晴らしさを少しずつ広げていきたいと考えています。



出典：豊岡市地域コミュニティ HP

【八代おもいやりネット「がんばらあ〜で八代花火」】

2020 年 8 月 7 日、「がんばらあ〜で八代花火」を行いました。

例年、この時期は 30 年続く「三世代ふれあい夏祭り」を行うところですが、今年はコロナの影響で夏祭りの中止を決定しました。しかし、住民から「夏祭りの最後に上げる花火だけはして欲しい」との声が多くあり、花火の打ち上げのみ実施しました。新作花火を含む 95 発の花火は見ごたえがあり、住民からは「最高の花火だった」「八代に住んでいるから見られる花火だ」と言ってもらい、素敵な一夜となりました。



【夢コミュニティ小坂「小坂地区の文化財や見所を集めたマップを作成しよう！」】

小坂地区では、地区の文化財や見どころを集めてガイドマップ作成をすすめています。

この取組みのきっかけとして、一つは、「まち探検」として 2017 年から毎年地区内の 1 つの区を巡っており、これまで鳥居区、大谷区、三木区で実施しましたが、まち探検に参加できなかった人にも魅力が発信できればという思い。もう一つは、小坂地区内の各区が一巡するには、あと十数年かかることから、いち早く住民の皆さんに各区の見所を紹介することで、地域資源の保全活動にも繋がればという思いから作成するものです。

すでに「まち探検」を終えている 3 区は、事務局で写真やスケッチを掲載した地図が完成しました。

その他の区では、各区の里おこし部会委員に白地図を配り、見所などに印を入れる作業を行ってもらい、その情報をもとに事務局で編集作業を行っています。

このガイドマップによって今後実施する「まち探検」に多くの人に参加してもらい、地域資源の保全や魅力の再発見に繋がればと考えています。



生きもの調査で世代間交流

福住小学校区では、はぐくみ活動の一環として「田んぼの水路の生きもの調査」を毎年行っています。当初は、水環境に変化がないかの確認のため、大人だけの調査でしたが、多くの種類の生きもののに出会えることから、小学生も一緒に調査をするようになりました。大人も子どもも、みんな一緒になって生きものを取りながら、「昔はよくとったんだで〜」、「あの辺にもよーけおるで！」など、世代間交流をする



ことでかかわりを深めながら、地元のことを子どもたちに伝えていきます。また生きもの専門家を講師に迎え入れ、今更ながら大人も含め正しい知識を得ることで、みんな一緒に自然豊かな地元の環境をまもり続けたいと思っています。

(文・写真) いずし中川の郷づくり協議会



2 2020 年度評価

評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶことが子どもたちに浸透している。
- ▲少子化、高齢化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっている。



目標像⑦

子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【主な取組みの方向】

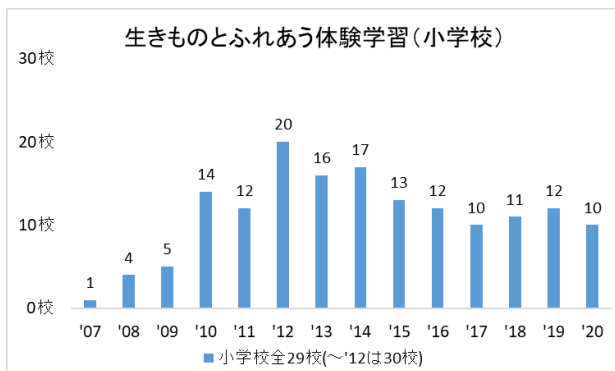
(1) (2) (3) (4) (5)
(8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

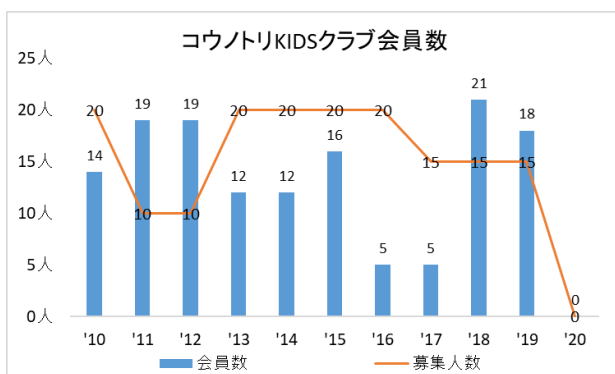
地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

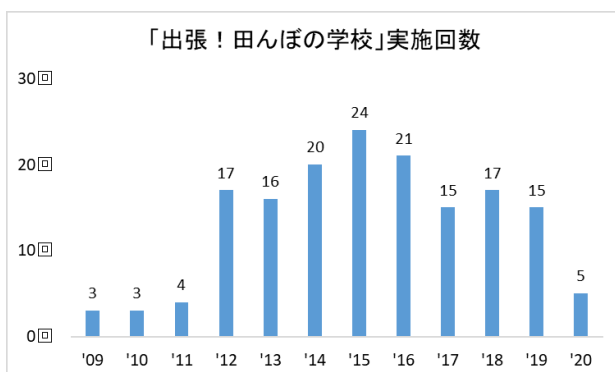
(1) 自然を学ぶ機会



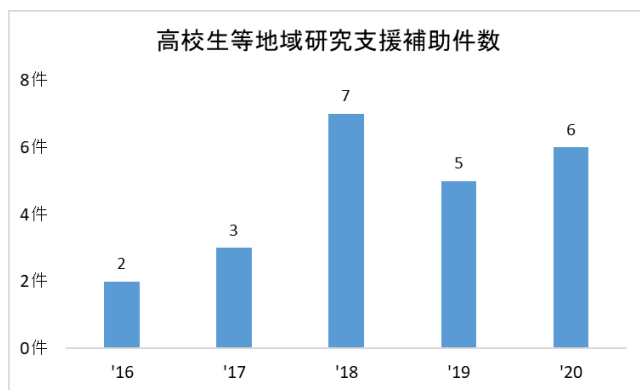
- ・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。



- ・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、市主催の活動です。
- ・対象：市内小学校4～6年生
- ・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、コウノトリ KIDS クラブの募集が取りやめとなりました。



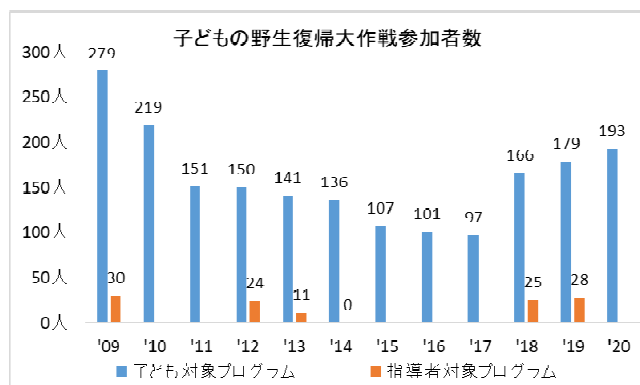
- ・「出張！田んぼの学校」では、NPO 法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。
- ・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、実施する団体数が減少しました。



- ・高等学校、高等専修学校の生徒が行うふるさと豊岡の誇りであるコウノトリ等に関連する研究や調査、活動等を支援しています。
- ・ふるさとの知見を深め、将来に渡って豊岡とつながりを持ち、取組みに参加する若者を増やすことが目的です。

《2020 年度の研究》

申請者	研究タイトル	内容
クラーク記念国際高等学校 豊岡キャンパス	特別活動「豊岡のコウノトリについて学ぼう」	ハチゴロウの戸島湿地での講話 拝聴及び湿地の草刈等、湿地保全活動を実施した。
兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ	高校生の湿地などでの環境保全・ 調査観察活動	豊岡市内の湿地において、外来 種駆除等を行い、ひょうご eco フ ォーラムで発表した。
兵庫県立出石高等学校	文理探究Ⅰ 自然分野の探求～ コウノトリとふるさと豊岡の自然 環境を学ぶ～	コウノトリ野生復帰の取組みや 市内の獣害の状況及び対策につ いて学び、校内で発表した。
兵庫県立出石特別支援学校 高等部	「コウノトリはばたけ学習」(コ ウノトリの観察等)	出石町水上区や袴狭区のコウノ トリを観察し、地域に対して普 及啓発も行った。
近畿大学附属豊岡高等学校 自然科学部	湿地保全活動を中心とした地域 貢献活動	湿地保全活動やコウノトリに関 する意識調査を実施し、ひょう ご eco フォーラム等で発表した。
大岡学園高等専修学校	戸牧川及び周辺河川の生態調査	戸牧川と袴狭川で河川環境や生 きものの生息状況を調査し、河 川の将来像について検討した。



- ・子ども対象プログラムは、2017 年度までは「子どもコース」と「家族コース」の合計、2018 年度からは「周年型プログラム」と「単発型プログラム」の合計です。
- ・子ども対象プログラムでは、市内各地域での活動を通じて、豊岡の自然を体験します。

(2) 学べる地域環境

市内全小学校区を目標に、一定規模のビオトープ水田の設置を進めています。環境学習フィールドとしても活用しています。

《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位：a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積
豊岡	豊岡	0.0	豊岡	港東	5.2	日高	府中	74.9	出石	弘道	0.0
	八条	111.0		港西	0.0		八代	0.0		福住	0.0
	田鶴野	47.7		神美	244.6		日高	40.8		寺坂	31.8 (+21.7)
	三江	70.6 (-7.4)	城崎	城崎	0.0		静修	0.0		小坂	0.0
	五荘	222.4		竹野	16.8		三方	36.4	但東	小野	74.8
	新田	0.0	竹野	中竹野	0.0		清滝	19.1		合橋	208.5 (-24.9)
	中筋	17.2		竹野南	0.0					高橋	0.0
	奈佐	48.3								資母	22.1

※合計面積の推移は p.16 に掲載。数値下の（ ）は前年度との比較数値

「コウノトリ KODOMO かいぎ」開催！

Topics

2021 年 3 月 28 日、主なコウノトリの繁殖地、飛来地である 5 つの地域（栃木県小山市、千葉県野田市、福井県越前市、島根県雲南市、豊岡市）の小学生がオンライン上で集う「コウノトリ KODOMO かいぎ」を開催しました。「歴史」、「農業」、「川」、「人々」、「取組み」、「こころ」をテーマに、豊岡でコウノトリ野生復帰に関わる人たちから話を聞き、「コウノトリといっしょに暮らすために大切なこと」について考え、意見交換をしました。結果やその後の取組みについては、2021 年 10 月 31 日に開催される「第 6 回コウノトリ未来・国際かいぎ」で子どもたちが報告します。自分たちに出来ることを考え、行動に移してくれることを期待しています。



2 2020 年度評価

評価

○人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着している。

この調子で
がんばろう

目標像⑧

市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【主な取組みの方向】

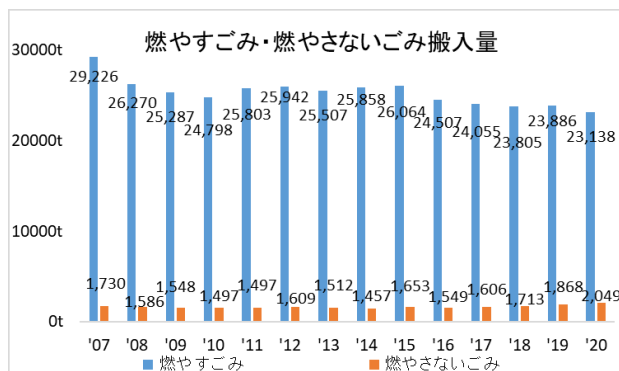
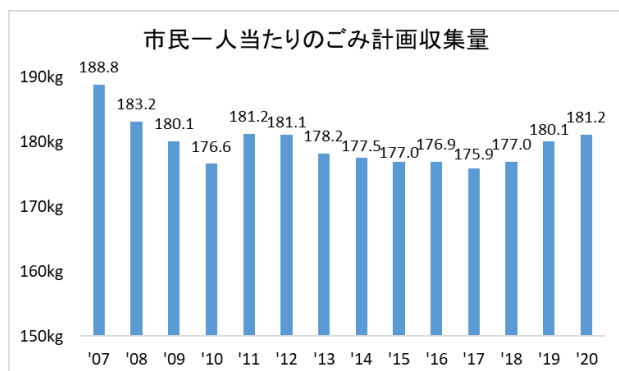
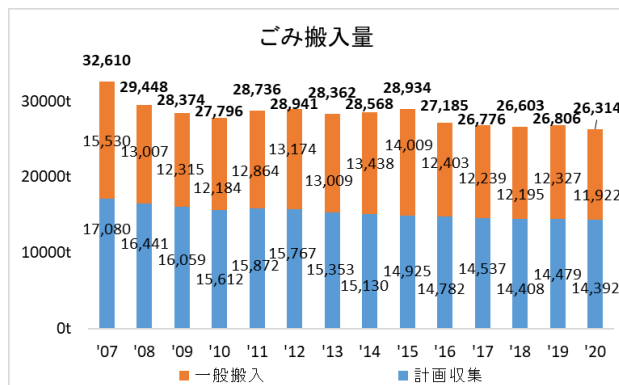
(2) (6) (9) (11) (12)

【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエMISSIONの取組を進めています

1 主な指標の変化(2007～2020年度)

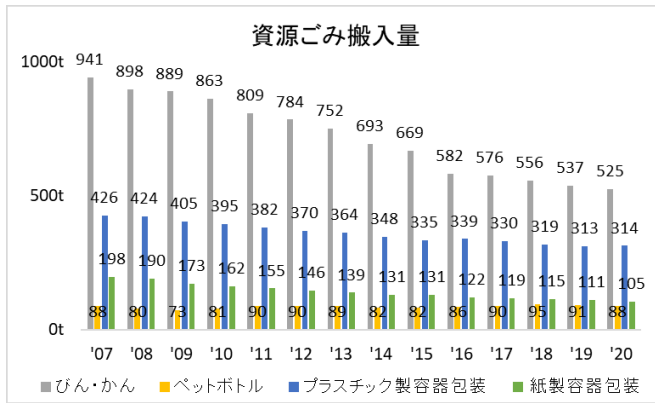
(1) ごみの量



《豊岡市人口(各年度末値)》

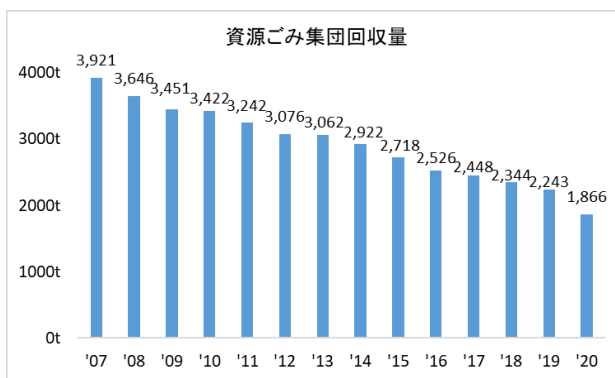
年度	人口	世帯
2007	90,443 人	31,808 世帯
2008	89,762 人	31,936 世帯
2009	89,169 人	32,185 世帯
2010	88,407 人	32,313 世帯
2011	87,585 人	32,380 世帯
2012	87,040 人	32,586 世帯
2013	86,173 人	32,651 世帯
2014	85,244 人	32,788 世帯
2015	84,337 人	32,869 世帯
2016	83,544 人	33,043 世帯
2017	82,624 人	33,173 世帯
2018	81,416 人	33,145 世帯
2019	80,416 人	33,274 世帯
2020	79,446 人	33,421 世帯

- ・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。
- ・2016 年4月から一部のごみの分別区分が下記の通り変わりました。
 - ①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみ
 - ②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光管・乾電池類・粗大ごみの4分類
 - ③1辺20cm以上の缶は燃やさないごみ
 - ④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみ
- ・人口は減少しているものの、世帯数が増加していることから、個別に収集するごみ量は増加する傾向にあります。



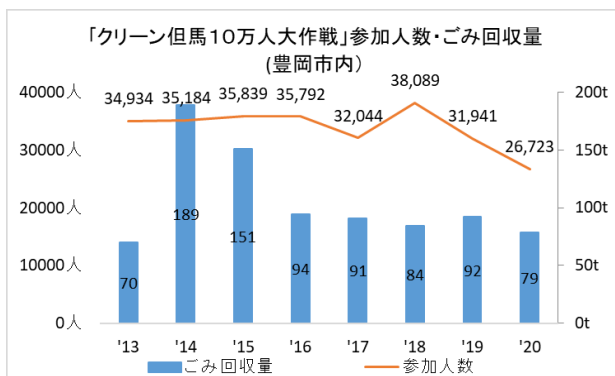
(2) 資源ごみの回収

ほぼ全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。

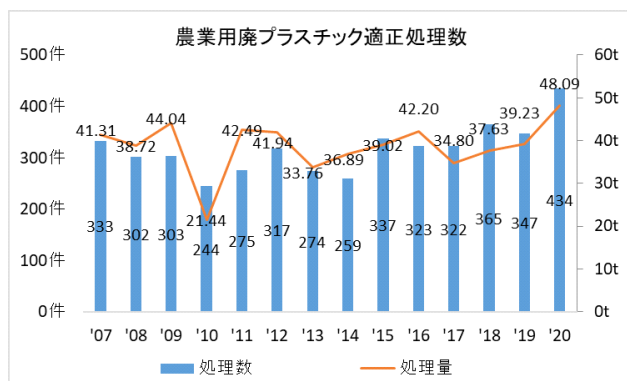


- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、婦人会、老人会、PTA等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。
- ・スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、資源ごみ集団回収が中止されたことにより回収量が減少しました。

(3) ごみ回収の取組み



- ・1990年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬10万人大作戦」を実施しています。
- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。
- ・ごみ回収量は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」のみで、水路の泥上げ作業で出た「土のう」は除いています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、参加人数が減少しました。



- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、年に一度持ち寄って集団処理が行われています。
- ・最終処分を担っている業者では、資源化(サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル)処分しています。

【サーマルリサイクル】

焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用

【マテリアルリサイクル】

原料として再生利用

「レジ袋有料化」スタート！

プラスチックは日常生活に便利な一方で、廃棄物や海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化の要因になるなど、多くの課題があります。こうした状況を背景として、2020年7月1日から、全国でプラスチック製買物袋の有料化が始まりました。中には前倒しで実施されていた事業所もあります。環境省は、レジ袋の使用辞退率が、有料化前は30%だったのに対し、有料化半年後には70%まで拡大したと報告しています。レジ袋の有料化は、すべての人が「プラスチックごみの問題」に関して意識するきっかけになったと言えます。エコバッグやマイボトルの活用など、環境問題に対して個人が取り組めることはたくさんありますので、豊岡市では今後も普及啓発に力を入れていきます。



Topics

2 2020 年度評価

評価

▲市民一人当たりのごみ計画収集量が増加している。

もっと
がんばろう

目標像⑨

市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を
実践し、再生可能エネルギーの利用も増えて
います

【主な取組みの方向】

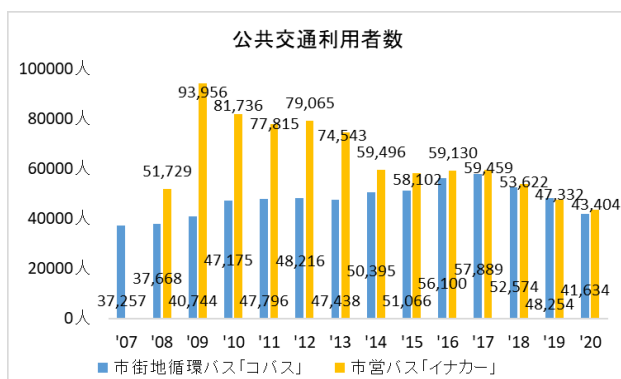
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

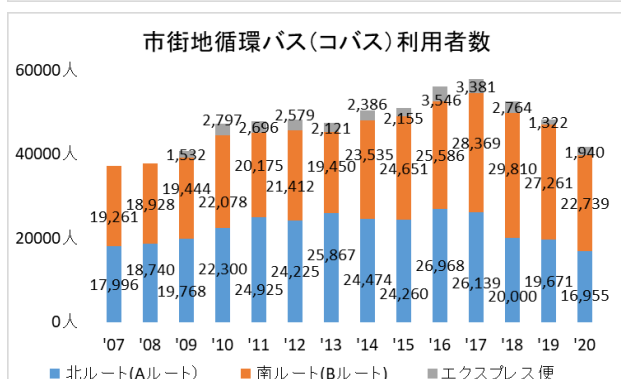
地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

1 主な指標の変化(2007～2020 年度)

(1) 公共交通の利用



・公共交通機関を利用することで、各乗用車での化石燃料使用が減り、一人当たりの二酸化炭素(CO₂)排出量も減らすことができます。

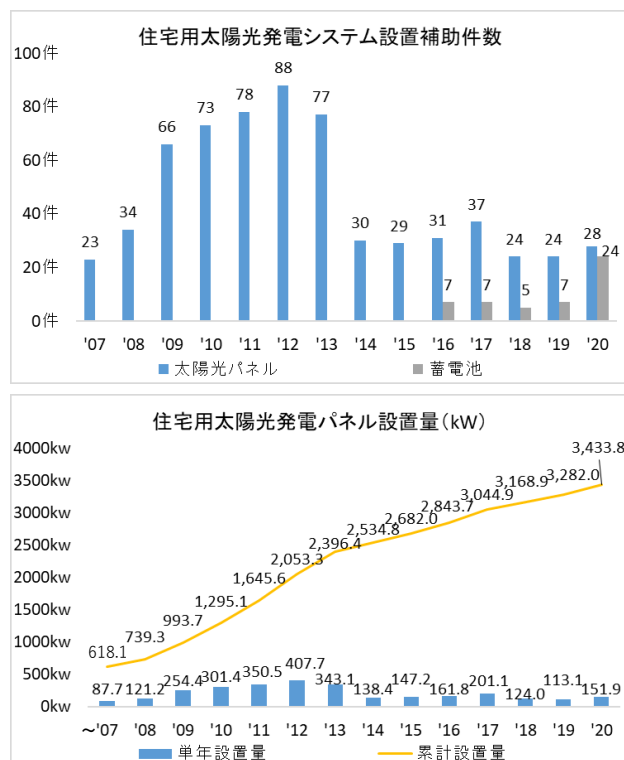


- ・2018 年度、コバスの走行ルートが、A ルート・B ルートから北ルート・南ルートに変更されました。
- ・ルート変更に伴い、5 カ所のバス停を休止し、3 カ所のバス停を新設。各ルートの乗継停留所を豊岡駅とアイティ前に集約しました。
- ・2020 年度、新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、コバス利用者が減少したと考えられます。
- ・ノーマイカーデー参加者数は第 4 部 56 ページに記載しています。

(2) 太陽光発電

太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、二酸化炭素(CO₂)も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。

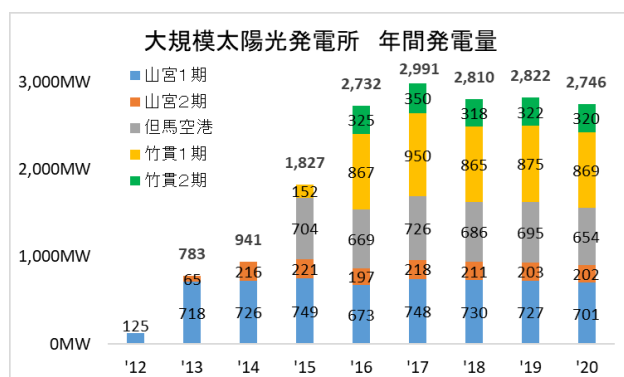
市の施設への太陽光発電システムの設置は1999年度から行っています。各地域の庁舎や小・中学校、コミュニティセンター等に設置されています。



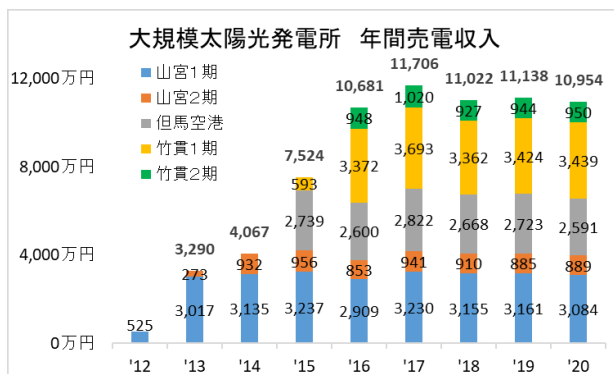
- ・2002年度から住宅用太陽光発電システム設置補助金制度が始まりました。
- ・2016年度から、蓄電池も補助対象となりました。
- ・太陽光パネルと一緒に蓄電池をつける場合も後から蓄電池だけをつける場合も対象です。

《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

施設名	稼働開始	最大出力
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第1期	2012年度	681.0kw
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第2期	2013年度	318.8kw
コウノトリ但馬空港地場ソーラー	2013年度	677.6kw
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第1期	2015年度	823.2kw
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第2期	2015年度	299.9kw



- ・各大規模太陽光発電所は、20年間運営します。



- 大規模太陽光発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持管理費の他に、住宅用太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用等に充てています。

Topics

「おすそわけ電源の輪」プロジェクト

株式会社キヅキ商会は、災害で停電した際、同社が施工した太陽光発電施設の電気を近隣住民に供給する「おすそわけ電源の輪」プロジェクトを実施しています。取組みのきっかけは、2018年9月に発生した北海道胆振東部地震後のブラックアウトをはじめ、自然災害に伴う大規模停電の頻発でした。同社が施工し、協力の得られた太陽光発電施設にコンセントを設置することで、停電時に携帯電話の充電や調理器具の利用が可能になります。木築社長は、「太陽光発電の価値を広く認識してほしい。将来はEVも自然エネルギーで充電すべき。」と取り組まれています。現在8カ所ですが、近くに住居のある場所を優先して、設備を増やし続けています。(写真提供：株式会社キヅキ商会)



2020 年度評価

評価

- 住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。
- メガソーラーによる発電が順調である。

この調子で
がんばろう

目標像⑩

環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な取組みの方向】

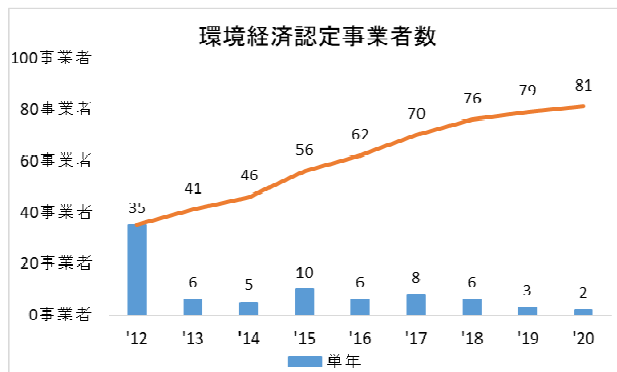
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡の町が元気になっています

1 主な指標の変化(2007～2020年度)

(1) 環境経済認定事業

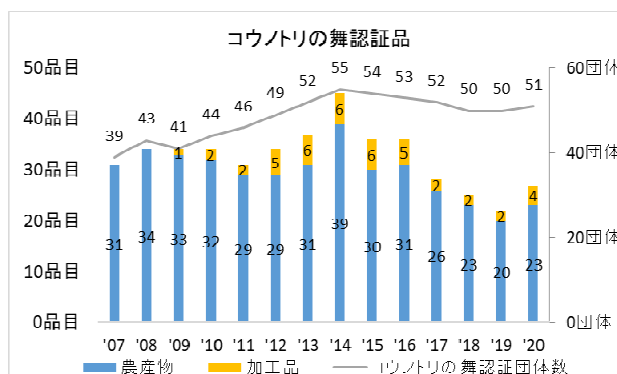


・市内の企業で、利益を追求する事業で環境が改善されるものを「環境経済事業認定」しています。

《2020年度環境経済認定事業者》

事業者名	認定事業名	事業内容
株式会社 ST クラフト	石工事で発生した端材を有効利用した製品作り	石工事で発生した端材を加工し、ペット用のマットなどの製品に変えて販売することで、廃棄物を抑制する。
株式会社アダストタジマ	機械及び天然式ハイブリッド乾燥方法を用いた玄関マットやモップのレンタル事業	マットやモップを洗濯、乾燥する際、乾燥機と竿干しを融合させた乾燥方法を用いることで、製品のダメージを抑え、電気使用も通常の半分以下になる。

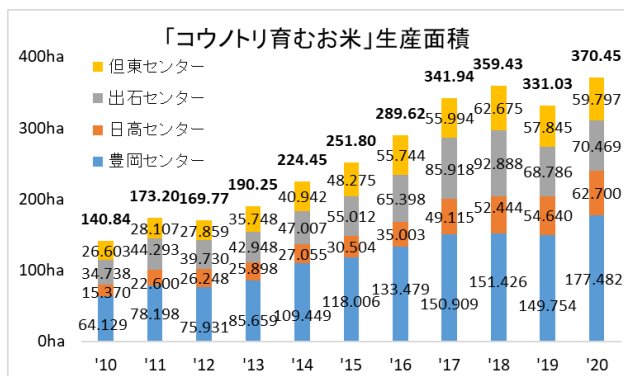
(2) コウノトリの舞



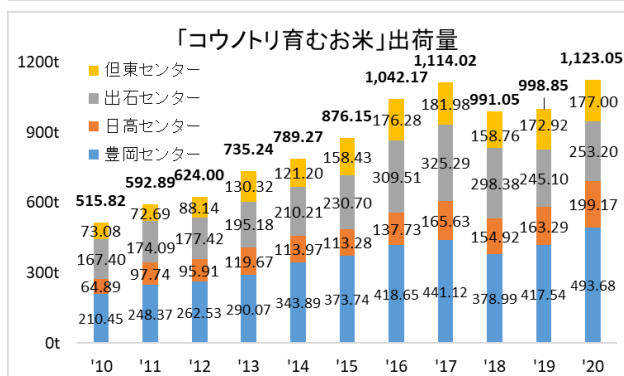
・2020年度の登録品目

米（うるち、酒、もち）、レタス、コマツナ、ホウレンソウ、小麦、ソバ、トマト、バレイショ、シュンギク、キャベツ、黒大豆枝豆、大豆、ショウガ、ブルーベリー、ぶどう、ニンジン、オクラ、タマネギ、トウモロコシ、ネギ（青ねぎ、葉ねぎ）、チンゲンサイ、ピーマン、水菜、生姜シロップ、生姜しぼり汁、ブルーベリーソース、ブルーベリージャム

(3) コウノトリ育むお米



・JA たじま営農生活センターごとのデータです。

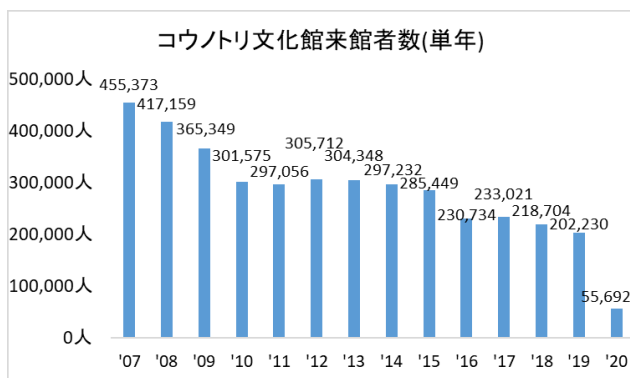


・コウノトリ育むお米は海外でも販売されています。

《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》

年度	輸出国・地域	輸出货量
2016	アメリカ、シンガポール	1.50t
2017	アメリカ、シンガポール、香港	7.80t
2018	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ	17.16t
2019	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ、台湾	17.27t
2020	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ、台湾、スイス、フランス	22.23t

(4) 人・もの・情報の交流



・近年、ツアー等の団体客が減少していますが個人旅行客は定着しています。

・2006年 100万人達成

・2008年 200万人達成

・2011年 300万人達成

・2014年 400万人達成

・2018年 500万人達成

・2020年度は、緊急事態宣言中の閉館により、来館者数が減少しました。

<市外からのボランティア活動による交流・地域活性>

市外の企業や団体、学校が環境保全活動ボランティアの際に、宿泊や観光も行うことで、地域の活性化につながります。ボランティアでは、湿地の乾燥化を防ぐために池を作ったり水路を広げる保全作業や外来種駆除等を行っています。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策により、ボランティア数が減少しました。

《市外からのボランティア件数》

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
件数	2件	2件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	5件	6件	4件	5件	1件

「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」農林水産大臣賞を受賞！

Topics

JA たじまが農林水産省主催の「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」の有機農業・環境保全型農業部門において、最上位である農林水産大臣賞を受賞しました。このコンクールは、持続可能な農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善等に取り組んでいる農業者等を表彰することで、その成果を広く紹介し、持続可能な農業の普及・拡大の加速化を図ることを目的としています。

JA たじま、生産者、行政が三位一体となり、環境保全型農業に取り組む体制を構築したことや、販売収益の一部をコウノトリ基金に寄付し、コウノトリ野生復帰の推進に貢献していること等が評価されました。

JA たじまは、GLOBAL G.A.P や有機 JAS の取得、「コウノトリ育むお米」の海外への販路拡大など、環境に配慮した取組みをしています。今後も持続可能な農業を推進することが期待されています。



(写真提供：JA たじま)



2 2020 年度評価

評価

- 環境経済認定事業者が年々増加している。
- コウノトリ育むお米の輸出国、輸出量が増加している。

この調子で
がんばろう

第3部 豊岡市の環境の状況

■環境の状況について

豊岡市の環境に関するさまざまなデータとその経年変化を整理しています。

1 自然

(1) 気象の状況

年 次	気温 (℃)			湿度 (%)	降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	霧日数 (日) ※	猛暑日 (日)
	平 均	最高極	最低極					
2000 年	14.5	39.3	-3.7	79	1,955	48	88	23
2001 年	14.3	36.8	-6.0	78	2,451	52	83	16
2002 年	14.6	37.9	-3.3	76	2,047	46	77	22
2003 年	14.3	36.2	-5.5	77	1,829	28	71	7
2004 年	15.4	37.2	-4.7	76	2,510	46	60	13
2005 年	14.5	37.2	-5.9	78	2,114	45	59	10
2006 年	14.5	36.8	-6.3	78	2,083	79	78	13
2007 年	15.0	38.6	-4.2	76	1,850	18	未測定	14
2008 年	14.6	38.4	-2.3	77	2,020	32	84	18
2009 年	14.6	36.3	-5.2	77	2,136	43	94	3
2010 年	15.2	38.0	-3.7	76	1,993	21	62	38
2011 年	14.5	37.7	-5.9	78	2,424	75	60	22
2012 年	14.3	37.7	-5.8	79	2,252	100	67	32
2013 年	14.9	37.9	-4.4	77	1,997	33	58	25
2014 年	14.4	38.7	-3.4	80	2,002	30	71	8
2015 年	14.9	37.6	-2.8	81	2,018	42	61	11
2016 年	15.4	38.2	-6.9	81	2,073	20	64	10
2017 年	14.4	37.9	-3.8	80	2,525	80	81	15
2018 年	15.2	39.1	-6.0	80	2,318	48	55	31
2019 年	15.4	37.9	-2.1	80	1,621	11	71	21
2020 年	15.4	38.6	-4.2	81	2,135	19	65	21

※「霧日数」は、2007 年 9 月以前(目視)と 2007 年 10 月以降(視程計)で、観測方法が異なる。 資料：気象庁

(2) 大気の状態

ア 県一般環境大気測定局における測定結果：年平均値（市役所測定局）

年 次	一酸化窒素 (ppm)	二酸化窒素 (ppm)	二酸化硫黄 (ppm)	浮遊粒子物質 (mg/m3)
2003 年	0.003	0.009	0.003	0.019
2004 年	0.004	0.009	0.002	0.019
2005 年	0.005	0.012	0.002	0.020
2006 年	0.004	0.008	0.002	0.019
2007 年	0.004	0.007	0.002	0.017
2008 年	0.001	0.007	0.002	0.018
2009 年	0.003	0.007	0.002	0.015
2010 年	0.002	0.006	0.001	0.022
2011 年	0.003	0.007	0.001	0.018
2012 年	0.001	0.007	0.001	0.020
2013 年	0.001	0.006	0.001	0.022
2014 年	0.001	0.005	0.001	0.019
2015 年	0.001	0.004	0.001	0.019
2016 年	0.001	0.004	0.001	0.018

年 次	一酸化窒素(ppm)	二酸化窒素(ppm)	二酸化硫黄(ppm)	浮遊粒子物質(mg/m3)
2017 年	0.000	0.004	0.001	0.016
2018 年	0.000	0.001	0.001	0.018
2019 年	0.000	0.002	0.001	0.015

資料：ひょうごの大気環境

イ 県自動車排出ガス測定局における測定結果：年平均値（国道 312 号小尾崎測定局）

年 次	一酸化窒素(ppm)	二酸化窒素(ppm)	一酸化炭素(ppm)
2003 年	0.010	0.017	0.6
2004 年	0.008	0.016	0.5
2005 年	0.007	0.015	0.5
2006 年	0.006	0.013	0.5
2007 年	0.006	0.012	0.4
2008 年	0.005	0.011	0.4
2009 年	0.004	0.009	0.4
2010 年	0.003	0.008	(0.3)
2011 年	0.005	0.009	0.3
2012 年	0.004	0.008	0.3
2013 年	0.003	0.005	0.3
2014 年	0.003	0.007	0.3
2015 年	0.003	0.006	0.2
2016 年	0.003	0.006	0.3
2017 年	0.002	0.005	0.4
2018 年	0.002	0.005	0.5
2019 年	0.002	0.004	0.3

※（ ）は、有効測定時間数（6000 時間／年）に達していない値を示す。

資料：ひょうごの大気環境

（3） 河川の水質〔BOD（生物化学的酸素要求量）75％値〕の推移

（単位：mg／l）

年 次	河川・観測地点(環境基準)		
	円山川上流上ノ郷(2.0mg/l)	円山川下流立野大橋(3.0mg/l)	竹野川竹野新橋(2.0mg/l)
2006 年	0.6	0.6	0.0
2007 年	0.6	0.5	0.5
2008 年	0.6	0.5	0.5
2009 年	0.5	0.5	0.0
2010 年	0.6	0.6	0.6
2011 年	0.6	0.8	0.0
2012 年	0.8	0.8	0.4
2013 年	0.6	0.8	0.0
2014 年	0.7	1.1	0.5
2015 年	0.6	1.2	0.7
2016 年	0.5	0.9	0.5
2017 年	0.7	0.8	0.5
2018 年	0.6	0.7	0.5
2019 年	0.5	0.7	0.5

資料：兵庫県環境白書

2 コウノトリ

(1) コウノトリの野生復帰の歩み

年 次	コウノトリの野生復帰の歩み
1955 年	・コウノトリ保護協賛会が発足し、官民一体となった保護運動を展開
1956 年	・コウノトリは 20 羽に減少。コウノトリが国特別天然記念物の指定を受ける
1962 年	・兵庫県が、国の特別天然記念物コウノトリの管理団体として指定を受ける
1963 年	・コウノトリは 11 羽に減少 ・巣から卵を取り、人工孵化を試みるが成功せず、野生個体を捕獲し、人工飼育に踏み切ることを決定
1964 年	・コウノトリ飼育場(現保護増殖センター)の建設に着手
1965 年	・野上地区にコウノトリ飼育場が完成 ・一つがいを保護し、人工飼育スタート
1971 年	・野生最後の 1 羽が豊岡市内で保護されたが死亡。これにより日本国内の野生コウノトリが消滅
1985 年	・ロシア(ハバロフスク地方)から野生の幼鳥 6 羽を受贈
1986 年	・豊岡盆地に生息し、飼育場で人工飼育されていた最後のコウノトリが死亡
1989 年	・人工飼育で初の繁殖に成功。以後、毎年繁殖に成功
1992 年	・野生復帰構想スタート
1994 年	・飼育下第 3 世代が誕生 ・「第 1 回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
1997 年	・県立コウノトリの郷公園の整備に着手
1998 年	・増殖事業は軌道に乗り、飼育下のコウノトリは 50 羽を超える
1999 年	・県立コウノトリの郷公園が開園
2000 年	・市立コウノトリ文化館が開館 ・「第 2 回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
2001 年	・飼育コウノトリが 80 羽を超える
2002 年	・飼育コウノトリが 100 羽を超える ・野生のコウノトリ(ハチゴロウ)が飛来し定着する
2003 年	・県が「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定 ・コウノトリ野生復帰推進連絡協議会が設置される ・市が安全・安心な農産物ブランド「コウノトリの舞」を商標登録 ・「コウノトリと共生する水田づくり」を始める
2004 年	・「コウノトリファンクラブ」が発足する
2005 年	・9 月 24 日コウノトリ 5 羽を自然放鳥 ・「第 3 回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催
2006 年	・野生のコウノトリ(エヒメ)が飛来し定着する ・放鳥拠点(祥雲寺)から 2 羽が巣立ち(段階的放鳥) ・飼育コウノトリ 3 羽を自然放鳥、放鳥拠点(河谷)のコウノトリ 4 羽を段階放鳥
2007 年	・5 月 20 日国内の野外で 43 年ぶりにひな 1 羽が誕生し、7 月 31 日 46 年ぶりに巣立つ ・飼育コウノトリ 3 羽を自然放鳥(楽々浦)、放鳥拠点(山本)の 2 羽を放鳥
2008 年	・5 月 20 日を「生きもの共生の日」と定める ・野外で 8 羽のひなが巣立つ ・放鳥拠点(三木)から 2 羽が巣立ち(段階的放鳥)

年 次	コウノトリの野生復帰の歩み
2009 年	・市立ハチゴロウの戸島湿地オープン ・野外で9羽のひなが巣立つ ・放鳥拠点(唐川)の2羽を放鳥
2010 年	・第4回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催 ・野外で9羽のひなが巣立つ
2011 年	・兵庫県教育委員会とコウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」を発表 ・福井県越前市に1ペア(2羽)を移送 ・野外で9羽のひなが巣立つ
2012 年	・7月3日「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録 ・放鳥コウノトリに3世誕生 ・野外で14羽のひなが巣立つ
2013 年	・豊岡市立三江小学校の人工巣塔から、初の巣立ち ・野外で22羽のひなが巣立つ
2014 年	・豊岡生まれのコウノトリが初めて国境を越え、韓国金海市に飛来 ・第5回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催(コウノトリ野生復帰の取り組みの特長や課題をまとめた報告書を発表) ・野外で16羽のひなが巣立つ
2015 年	・7月23日千葉県野田市で3羽のコウノトリを放鳥(兵庫県外で初の放鳥) ・9月3日韓国忠清南道禮山郡で、韓国初となる放鳥(8羽を放鳥) ・10月3日福井県越前市白山区で2羽のコウノトリを放鳥 ・野外で13羽のひなが巣立つ
2016 年	・韓国で放鳥されたコウノトリからひなが誕生し、巣立つ ・野外で12羽のひなが巣立つ
2017 年	・国内野外で生息するコウノトリが100羽を突破 ・徳島県鳴門市で、豊岡盆地周辺以外で初のひな誕生 ・野外で25羽のひなが巣立つ
2018 年	・野外で24羽のひなが巣立つ
2019 年	・野外で46羽のひなが巣立つ
2020 年	・国内野外で生息するコウノトリが200羽を突破 ・野外で56羽のひなが巣立つ

(2) コウノトリの羽数 (2020 年 12 月 30 日現在)

区 分	生息数
兵庫県立コウノトリの郷公園の飼育個体	95 羽
野外で生息する個体 (ひなを除く)	220 羽
飛来した野生個体	－ 羽
合 計	315 羽

資料：県立コウノトリの郷公園

3 人口、世帯数、就業者数の推移

(1) 世帯および人口の推移 (各年 10 月 1 日現在)

年次	面積 (k m ²)	世帯数 (戸)	人口 (人)			1 世帯当 りの人員	年齢別人口 (人)		
			総数	男	女		14 歳以下	15～64 歳	65 歳以上
◎1995 年	697.66	28,131	93,859	44,974	48,885	3.34	16,072	58,557	19,230

年次	面積 (k m ²)	世帯数 (戸)	人口 (人)			1 世帯当 りの人員	年齢別人口 (人)		
			総数	男	女		14 歳以下	15～64 歳	65 歳以上
◎2000 年	697.66	29,181	92,752	44,637	48,115	3.18	14,508	56,489	21,755
◎2005 年	697.66	29,617	89,208	42,695	46,513	3.01	12,966	53,177	23,059
◎2010 年	697.66	29,741	85,592	40,791	44,801	2.88	11,893	49,523	24,144
2011 年	697.66	29,874	85,012	40,571	44,441	2.85	－	－	－
2012 年	697.66	29,818	84,389	40,353	44,036	2.83	－	－	－
2013 年	697.66	29,882	83,749	40,088	43,661	2.80	－	－	－
2014 年	697.66	30,017	83,011	39,779	43,232	2.77	－	－	－
◎2015 年	697.55	30,189	82,250	39,494	42,756	2.72	10,620	45,281	25,983
2016 年	697.55	30,278	81,391	39,071	42,320	2.69	－	－	－
2017 年	697.55	30,456	80,595	38,682	41,913	2.65	－	－	－
2018 年	697.55	30,450	79,428	38,175	41,253	2.61	－	－	－
2019 年	697.55	30,586	78,299	37,726	40,573	2.56	－	－	－
2020 年	697.55	30,583	77,250	37,257	39,993	2.53	－	－	－

※本表は 5 年毎の国勢調査結果および兵庫県推計人口結果

◎は国勢調査結果（2015 年は速報値）

（２） 産業別就業者数

（単位：人）

年次	第 1 次	第 2 次	第 3 次	分類不能	計
1990 年	5,453	17,921	26,217	48	49,639
1995 年	4,823	17,129	27,834	20	49,806
2000 年	3,581	15,485	28,179	143	47,388
2005 年	3,544	13,485	28,088	73	45,190
2010 年	2,873	11,196	26,743	864	41,676
2015 年	2,472	10,981	26,511	745	40,709

資料：国勢調査

4 森林面積

（１） 樹種別森林面積

（単位：ha）

年次	針葉樹	広葉樹	その他	計
2007 年	26,025	27,400	1,115	54,540
2008 年	26,070	27,351	1,116	54,537
2009 年	26,076	27,345	1,116	54,536
2010 年	26,076	27,345	1,116	54,536
2011 年	26,077	27,336	1,117	54,530
2012 年	26,077	27,336	1,117	54,530
2013 年	26,062	27,306	1,142	54,510
2014 年	26,092	27,297	1,148	54,537
2015 年	26,091	27,297	1,149	54,537
2016 年	26,092	27,285	1,160	54,537
2017 年	26,097	27,279	1,142	54,518
2018 年	26,104	27,272	1,142	54,518
2019 年	26,112	27,262	1,140	54,514

※端数処理の関係で合計数値が合わない

資料：兵庫県森林GISシステム

（２） 所有者別森林面積（2020 年 3 月 31 日現在）

区分	針葉樹	広葉樹	その他	総数
公有林	1,690	1,544	61	3,295
私有林	24,422	25,718	1,079	51,219
共有林	0	0	0	0
総数	26,112	27,262	1,140	54,514

※端数処理の関係で合計数値が合わない

(3) 林業就業者数

2005 年	2010 年	2015 年
26 人	101 人	68 人

資料：国勢調査（2010 年から集計方法変更。農家林家を含む）

(4) 市内の除間伐の面積

年度	面積 (ha)	年度	面積 (ha)
2010 年	723	2016 年	300
2011 年	890	2017 年	268
2012 年	515	2018 年	306
2013 年	519	2019 年	316
2014 年	498	2020 年	293
2015 年	401		

※市、公社、民間等の分収造林すべてを含む

資料：北但東部森林組合

5 農業

(1) 農家数の推移

(単位：戸)

年次	専 業	1 種兼業	2 種兼業	自給的農家	計
1985 年	585	855	6,930		8,370
1990 年	647	562	6,251		7,460
1995 年	617	648	5,496		6,761
2000 年	468	361	3,703	1,732	6,264
2005 年	546	296	2,936	2,021	5,799
2010 年	570	304	2,270	2,088	5,232
2015 年	472	303	1,768	1,912	4,455
項目変更	販売			自給的農家	
2020 年	1,971			1,722	3,693

※2000 年から自給的農家の専兼業別調査の簡素化

※2020 年から専兼業別の把握を廃止

資料：農林業センサス

(2) 経営耕地のある農家数と経営耕地面積 (2017)

(単位 農家数：戸、面積：ha)

区 分	総 数		耕作田		耕作畑		樹園地		休耕田	
	農家数	面 積	農家数	面積	農家数	面 積	農家数	面 積	農家数	面 積
2005 年	-	3,880	3,713	3,521	2,678	319	251	42	1,280	218
2010 年	3,181	3,651	3,098	3,336	2,227	285	212	30	1,054	208
2015 年	2,593	3,468	2,518	3,188	1,605	253	151	26	595	118
2020 年	2,036	3,255	1,987	2,956	1,210	277	138	22		

※2020 年から集計方法変更。経営耕地のある経営体の数と経営耕地面積を把握

資料：農林業センサス

6 漁業

(1) 漁家数、漁獲量、漁獲高の推移

年次	漁家数（戸）			漁獲量（t）			漁獲高（万円）		
	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜
2006 年	221	124	97	2,941	2,324	617	191,088	177,582	13,506
2007 年	210	119	91	2,706	2,285	421	190,926	173,778	17,148
2008 年	206	115	91	2,771	2,356	415	192,380	175,209	17,171
2009 年	205	114	91	2,248	1,731	517	168,056	153,399	14,657
2010 年	198	112	86	2,286	1,939	347	160,490	147,231	13,259
2011 年	183	108	75	2,310	2,117	193	162,615	152,825	9,790
2012 年	179	108	71	2,375	2,177	198	164,312	154,493	9,819
2013 年	167	105	62	2,506	1,987	519	163,244	153,028	10,216
2014 年	160	101	59	2,425	2,158	267	171,377	159,616	11,761
2015 年	154	97	57	2,484	2,101	383	189,073	178,505	10,568
2016 年	145	89	56	2,534	2,295	239	183,870	173,344	10,526
2017 年	137	81	56	2,193	1,963	230	177,465	167,947	9,518
2018 年	134	79	55	1,750	1,529	221	183,772	172,648	11,124
2019 年	133	78	55	2078	1,818	260	181,859	170,254	11,605
2020 年	132	76	56	1,863	1,697	166	172,348	164,207	8,141

資料：但馬漁協 津居山支所、竹野支所

7 ごみ

(1) ごみ収集量 (単位：t) [参考] 1人あたりの収集量 (単位：人/kg)

年度	計	計画収集	一般搬入	人口	1人あたり
2007 年	32,610	17,080	15,530	90,443	360.6
2008 年	29,448	16,441	13,007	89,762	328.1
2009 年	28,374	16,059	12,315	89,169	318.2
2010 年	27,796	15,612	12,184	88,407	314.4
2011 年	28,736	15,872	12,864	87,585	328.1
2012 年	28,941	15,767	13,174	87,040	332.5
2013 年	28,362	15,353	13,009	86,173	329.1
2014 年	28,568	15,130	13,438	85,244	335.1
2015 年	28,934	14,925	14,009	84,337	343.1
2016 年	27,185	14,782	12,403	83,544	325.4
2017 年	26,776	14,537	12,239	82,624	324.1
2018 年	26,603	14,408	12,195	81,416	326.7
2019 年	26,806	14,479	12,327	80,416	333.3
2020 年	26,314	14,392	11,922	79,446	331.2

※清掃土砂、災害ごみを除く

資料：生活環境課

(2) ごみ種別搬入量 (単位：t)

年度	燃やすごみ	燃やさないごみ	びんかん	ペットボトル	プラスチック製容器包装	紙製容器包装	計	水路土砂
2007 年	29,226	1,730	941	88	426	198	32,610	425
2008 年	26,270	1,586	898	80	424	190	29,448	369
2009 年	25,287	1,548	889	73	405	173	28,374	388
2010 年	24,798	1,497	863	81	395	162	27,796	412

年度	燃やす ごみ	燃やさない ごみ	びん かん	ペット ボトル	プラスチック製 容器包装	紙製 容器包装	計	水路 土砂
2011 年	25,803	1,497	809	90	382	155	28,736	37
2012 年	25,942	1,609	784	90	370	146	28,941	0
2013 年	25,507	1,512	752	89	364	139	28,363	0
2014 年	25,858	1,457	693	82	348	131	28,569	0
2015 年	26,064	1,653	669	82	335	131	28,934	0
2016 年	24,507	1,549	582	86	339	122	27,185	0
2017 年	24,055	1,606	576	90	330	119	26,776	0
2018 年	23,805	1,713	556	95	319	115	26,603	0
2019 年	23,886	1,868	537	91	313	111	26,806	0
2020 年	23,138	2,049	525	88	314	105	26,314	0

資料：生活環境課

(3) 資源ごみ集団回収量

(単位：t)

年度	団体数	紙類	布類	スチール缶	ビン類	アルミ缶	牛乳パック	計
2007 年	680	3,747	90	1	30	43	10	3,921
2008 年	657	3,477	88	1	27	43	10	3,646
2009 年	667	3,323	86	1	25	49	9	3,493
2010 年	662	3,261	80	2	20	50	9	3,422
2011 年	635	3,078	79	2	17	51	9	3,236
2012 年	634	2,916	86	2	16	47	9	3,076
2013 年	644	2,913	81	2	14	43	9	3,062
2014 年	651	2,777	79	1	13	44	9	2,923
2015 年	663	2,575	80	1	12	42	8	2,718
2016 年	655	2,384	81	1	10	42	8	2,526
2017 年	672	2,312	75	1	9	44	7	2,448
2018 年	655	2,215	74	0.9	7	40	7	2,344
2019 年	646	2,107	81	1	5	38	5	2,243
2020 年	583	1,781	37	0.6	4	35	5	1,866
補助金単価 (※1)		6 円	5 円	5 円	5 円	5 円	5 円	
補助金単価 (※2)		7 円	7 円	2 円	2 円	2 円	7 円	

※1 1kg 当たりの単価。ビン類(1 升ビン、ビール瓶が対象)は2 本を1 kg に換算。

資料：生活環境課

※2 2012 年度から補助金単価を変更。

8 指定文化財

(2021 年 3 月 31 日現在)

種別等			国	県	市	計
有形 文化財	建造物	建造物	6	6	43	55
	美術工芸品	絵画	1	6	21	28
		彫刻	4	13	31	48
		工芸品	1	1	18	20
		書跡・典籍	－	1	33	34
		古文書	－	－	8	8
		考古資料	－	6	15	21

種別等			国	県	市	計
		歴史資料	-	1	3	4
無形文化財		無形文化財保持者	-	-	1	1
民俗文化財		有形民俗	-	1	7	8
		無形民俗	-	2	9	11
史跡名勝 天然記念物		史跡	2	6	30	38
		名勝	1	3	8	12
		天然記念物	2	11	20	33
		〃（地域を定めず）	7	-	-	7
		特別天然記念物	-	-	-	-
		〃（地域を定めず）	2	-	-	2
伝統的建造物群		伝統的建造物群保存地区	1	-	-	1
登録有形文化財		建造物	20	1	-	21
合 計			47	58	247	352

資料：文化振興課

9 エネルギー

(1) 電灯・電力消費量

(単位：千 kWh)

年度	総 量	電 灯	電 力	その他
2010 年	296,084	254,286	41,798	非公表
2011 年	287,049	247,345	39,704	非公表
2012 年	278,367	240,801	37,566	非公表
2013 年	274,968	236,386	35,923	非公表
2014 年	262,558	226,692	33,736	非公表
2015 年	253,508	218,858	32,725	1,925
2016 年	非公表	非公表	非公表	非公表
2017 年	非公表	非公表	非公表	非公表
2018 年	非公表	非公表	非公表	非公表
2019 年	非公表	非公表	非公表	非公表
2020 年	非公表	非公表	非公表	非公表

※電灯とは、定額電灯、従量電灯、公衆街路灯、時間帯別電灯

資料：関西電力株式会社

※電力とは、深夜電力、低圧電力、事業用電力

※その他とは、建設工事用、臨時電灯・電力、農事用電力、融雪用電力

※特定規模需要（自由化対象需要）の実績は含まない。

※2016 年度から、一般家庭の電力も自由化対象となり非公表

(2) ガスの業種別需要状況

(単位：千 m³)

年度	総 数	家庭用	業務用			
			計	商業用	工業用	その他
2010 年	7,363	2,804	4,559	2,059	36	2,464
2011 年	7,217	2,739	4,479	2,020	28	2,431
2012 年	7,184	2,672	4,512	2,109	25	2,378
2013 年	7,538	2,558	4,980	2,604	19	2,357
2014 年	7,620	2,546	5,074	2,709	17	2,348
2015 年	7,375	2,412	4,962	2,701	19	2,243
2016 年	7,589	2,394	5,195	2,779	16	2,400
2017 年	7,668	2,462	5,205	2,786	15	2,404
2018 年	7,435	2,289	5,145	2,813	16	2,316

年度	総 数	家庭用	業務用			
			計	商業用	工業用	その他
2019 年	7,327	2,243	5,084	2,812	15	2,256
2020 年	7,013	2,374	4,639	2,295	15	2,330

※供給ガスの熱量は 45MJ/m³ (10,750Kcal/m³)

資料：(株)豊岡エネルギー

(3) 太陽光発電システム設置状況

(単位 出力：kW；削減量：t)

設置年度	住宅		公共施設・事業所	
	出力	CO ₂ 削減量	出力	CO ₂ 削減量
～2006 年	539.5	169.8	92.0	29.0
2007 年	87.7	27.6	4.7	1.5
2008 年	121.2	38.1	18.0	5.7
2009 年	254.4	67.4	8.4	2.2
2010 年	301.4	79.9	395.3	104.8
2011 年	350.5	98.5	29.0	8.2
2012 年	407.6	168.8	14.5	6.0
2013 年	343.1	163.0	1,703.5	809.2
2014 年	138.4	71.4	5.5	2.8
2015 年	147.2	77.0	1,123.1	587.4
2016 年	161.8	80.3	24.6	12.2
2017 年	201.1	99.1	0.0	0.0
2018 年	124.0	51.8	35.0	14.6
2019 年	113.1	37.8	0.0	0.0
2020 年	151.9	50.7	0.0	0.0
計	3342.8	1230.3	3,453.7	1,583.5

※CO₂削減量は環境省のデータにより算出

資料：生活環境課

10 下水道普及率

年 度	処理区域(ha)	供用開始人口(人)	普及率(%)	水洗化済人口(人)	水洗化率(%)
2010 年	3,077	87,789	99.9	78,869	89.8
2011 年	3,083	87,003	99.9	78,740	90.5
2012 年	3,085	86,917	99.9	79,364	91.3
2013 年	3,089	86,165	99.9	78,957	91.6
2014 年	3,090	85,236	99.9	78,323	91.9
2015 年	3,094	84,333	99.9	78,083	92.6
2016 年	3,094	83,549	99.9	77,644	92.9
2017 年	3,096	82,055	99.9	76,724	93.5
2018 年	3,096	80,868	99.9	75,813	93.7
2019 年	3,099	79,855	99.9	75,315	94.3
2020 年	3,098	78,910	99.9	74,681	94.6

資料：下水道課

第4部 市の取組み実績

■市の取組みについて

環境基本計画第5章「取組みの方向と行動指針」に基づき、市の取組み実績を整理しています。

行動指針 1 森林を利用し、保全します											
(1) 自然豊かな森林の保全、創造											
①多様な動植物の生息・生育環境を守るため、森林の保全											
②無秩序な森林開発を抑制											
③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め森林の保全											
(2) 地元産材の利用促進											
①地元産、国内産の木材を利用											
②ペレットストーブや薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器											
(3) 災害に強い森づくり											
土砂災害防止、水源かん養など森林の有する機能を維持増進											
(4) 森林での自然体験、ボランティア活動											
①森林を体験学習、保健休養の場として活用											
②間伐、枝打ちなどの森林ボランティア活動を検討											
(5) 森林の持つ多面的機能などのPR											
森林の持つ多面的機能など、森林の適正管理の重要性についてのPR											
(6) 森林を活用する新たな方法の研究と実用化											
森林ツーリズムなど、新たな活用方法を検討											

《行動指針 1 に関する豊岡市の取り組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
除間伐等面積(市行造林)(ha)	73.57	68.60	27.38	32.92	50.74	75.51	50.83	61.82	35.6	32.32	26.00	23.69	55.54	36.24	農林水産課
間伐材による土留工数(箇所)	102	192	188	158	107	56	22	24	20	22	20	37	35	28	農林水産課
広葉樹植樹面積(ha)	0.90	1.37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.33	農林水産課
〃 苗木提供数(本)	420	300	137	117	86	130	53	35	60	40	30	35	30	0	農林水産課
豊岡産ペレット製造量(t)					293	516	644	684	534	382	337	288	131	—	農林水産課
市施設木造・木質化・ペレットストーブ導入数															
新築(棟)	1	5	3	0	4	2	1	4	1	3	2	1	0	0	建築住宅課
増築(棟)	0	3	1	2	1	2	1	1	0	1	0	0	0	0	建築住宅課
ペレットストーブ設置数(台)	1	5	3	0	4	27	0	18	0	0	0	0	0	0	農林水産課
ペレットボイラー設置数(台)			1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	農林水産課
特用林薪物生産量(kg)										420,786	461,151	397,808	378,181	303,176	農林水産課
住宅用ペレットストーブ設置補助数(件)					6	5	8	17	8	7	9	7	5	5	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)					102	90	143	282	138	129	151	124	99	100	地球温暖化防止対策室
住宅用ペレットボイラー設置補助数(件)						0	0	0	0	0	0	0	0	0	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)						0	0	0	0	0	0	0	0	0	地球温暖化防止対策室
住宅用薪ストーブ設置補助数(件)							5	22	14	11	9	9	12	12	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)							99	435	280	220	180	180	236	240	地球温暖化防止対策室
住宅用薪ボイラー設置補助数(件)							0	2	0	0	0	0	0	0	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)							0	34	0	0	0	0	0	0	地球温暖化防止対策室
奈佐森林公園利用者数(人)	5,036	5,482	5,081	3,606	3,874	4,703	4,367	4,737	5,167	5,532	4,084	4,492	4,255	1,563	農林水産課
竹野南森林公園体験教室開催数(回)	6	6	6	6	6	5	7	6	6	7	6	7	6	4	竹野 地域振興課
〃 参加者数(人)	79	91	96	84	103	120	169	91	117	122	115	118	95	54	竹野 地域振興課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
竹伐採ボランティア数(人)	32	25	15	—	49	116	123	105	19	0	0	0	0	0	コウノトリ共生課

行動指針 2 川や海などの水辺環境を保全します

(1) 多自然型の川づくり、砂浜の侵食防止

- ①人と自然がふれあえる多自然型の川づくりを促進
- ②砂浜の侵食を防ぐなど海辺の保全を促進

(2) 多様な生きものが生息できる水辺環境の保全

- 多様な生きものが生息できる水辺づくりを促進

(3) 河川等での環境美化活動

- ①地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進

- ②海などでの漂着ごみの撤去

- ③川や海に流れ込む草、わらを削減するよう啓発
- ④川や海にごみを捨てないよう啓発

- ③稚魚の放流など水産資源の維持育成を促進

- ④水産加工ごみの効率的な処理や有効活用を支援

(4) 水の利用と水質の保全

- ①水道の水質の向上、水量の確保

- ②節水や水の再利用

- ③下水道の整備、利用促進により水質の悪化を防止
- ④農業排水による川の水の濁り防止について啓発

(5) 水産業の振興

- ①資源管理型漁業（自主的な採捕制限）を促進
- ②魚礁の設置など自然環境に配慮した漁場の拡大

《行動指針 2 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
湿地管理ボランティア数(人)			457	521	190	208	312	212	249	402	457	426	475	276	コウノトリ共生課
漁港漂着ごみ清掃委託数(箇所)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	農林水産課
海岸清掃・管理委託数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	建設課
海岸漂着物地域対策(GND事業)(t)				34.88	28.84	0	13.90	30.90	5.10	16.32	17.69	21.88	34.09	30.21	生活環境課
不法投棄監視カメラ(台)				6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	生活環境課
不法投棄防止看板設置・配布数(枚)	28	56	44	16	70	50	40	40	30	15	55	79	67	20	生活環境課
上水道配水量(1人/日)(0)	438	439	434	440	429	424	427	423	426	421	424	428	431	422	水道課
簡易水道配水量(1人/日)(0)	419	412	395	411	399	398	395	392	416	423	(※)				水道課
水洗化率(%)	86.2	88.2	88.8	89.8	90.5	91.3	91.6	91.9	92.6	92.9	93.5	93.7	94.3	94.6	下水道課
(公共下水道)	85.5	87.6	88.3	89.5	90.1	91.0	91.3	91.6	92.3	92.7	93.3	93.7	94.3	94.7	下水道課
(集落排水等)	88.6	90.2	90.8	91.1	92.0	92.5	92.7	92.9	93.6	93.9	94.3	93.9	94.2	94.2	下水道課
魚礁設置数(個)	113	0	98	120	0	0	110	88	57	48	44	64	32	29	農林水産課
河川の稚魚・貝放流補助金(万円)	81	188	191	173	191	191	191	191	191	191	167	183	185	186	農林水産課

※簡易水道事業は、2017年度から上水道事業に統合。

行動指針 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します	
(1) 環境創造型農業の推進	⑤耕作放棄地の拡大防止
①農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進	(2) 元気が出る農業づくりの推進
②多様な生きものの生息場所、降雨時の保水のため、農地の保全を促進	①安全・安心な農産物生産を促進
③「コウノトリ育む農法」を推進し、たくさんの生きものが住む農地の拡大を促進	②消費者と農業者との交流を促進
④田んぼに生きものが生息できるための魚道等の整備を促進	③県(森林動物研究センター)と連携し、有害鳥獣の計画的な駆除・防除
</	

《行動指針 4 に関する豊岡市の取り組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
農業スクールの研修生(人)							3	2	2	3	4	6	7	5	農林水産課
認定農業者数(経営体)	110	116	110	113	115	119	122	134	132	131	129	133	134	123	農林水産課
集落営農組織数(集落)	32	37	39	40	41	41	45	49	52	53	55	57	56	56	農林水産課
農業法人数(法人)	10	11	11	13	16	19	19	20	21	24	27	30	30	33	農林水産課
林業法人数(法人)	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	農林水産課

行動指針 5 生き物がバランス良く生息する自然環境を保全します

(1) 多様な生きものの生息環境の保全

- ①ビオトープづくりを推進
- ②農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進
- ③自然環境に配慮した多自然型の工事
- ④開発にあたっては、野生動植物の生息・生育環境に配慮し、保全
- ⑤生きものとふれあう体験学習の場を提供

①野生動植物の生息・生育状況を調査し、情報を提供

②希少動植物を保護

③ペット動物は責任を持って飼育するよう啓発

④地域固有の生態系を保全するため、外来種を持ち込まないよう啓

発

⑤シカやイノシシ、クマなどの生息環境を保全し、健全な里山づく

り

県(森林動物物研究センター)と連携し、有害鳥獣の計画的な駆除・防除

(4) コウノトリの野生復帰の受け皿づくり

①コウノトリのエサ場、ねぐらなど生息環境保全

②コウノトリ野生復帰の取り組みの様々な情報を発信

(2) 野生動植物の保護

(3) 野生動物対策の推進

《行動指針 5 に関する豊岡市の取り組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
ビオトープ水田面積(ha)	16.0	12.5	7.8	11.9	12.2	12.7	12.5	12.4	12.8	12.6	12.6	11.4	13.0	12.9	コウノトリ 共生課
生きものとふれあう体験学習(公民館)(館)	3	5	5	5	6	7	7	6	5	2	3	4	3	0	コウノトリ 共生課
" (小学校)(校)	1	4	5	14	12	20	16	17	13	12	10	11	12	10	コウノトリ 共生課
コウノトリ KIDS クラブ(人)				14	24	19	12	12	16	5	5	21	18		コウノトリ 共生課
コウノトリ KIDS クラブ(回)				7	9	8	8	8	9	8	10	10	8	2	コウノトリ 共生課
コウノトリ情報誌「FLY TO THE WILD」発行(回)	4	4	4	3	3	1	0	0	0						コウノトリ 共生課
小さな自然再生活動支援助成事業(件)					2	3	1	4	8	10	9	14	12	3	コウノトリ 共生課
ペット飼育マナー啓発(広報掲載)(回)	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
" (チラシ配布)(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
外来種(魚)駆除回数(回)		1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	0	2	コウノトリ 共生課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
防護柵設置延長(補助金分)(m)	43,021	24,730	71,628	42,174	69,679	73,557	19,290	37,530	42,713	93,452	91,727	46,260	24,058	29,234	農林水産課
〃 地区数(地区)	48	32	47	22	57	29	17	21	29	41	37	18	18	14	農林水産課
〃 個人数(人)		57	76	42	104	62	28	59	59	51	48	22	16	41	農林水産課
防護柵、捕獲柵等補助金額(万円)	726	716	9,588	7,740	7,885	9,104	4,204	4,183	5,597	9,437	13,277	5,853	4,932	3,361	農林水産課
有害鳥獣駆除数 シカ(頭)	1,410	2,238	2,334	3,104	2,689	2,675	3,483	4,041	4,815	4,247	4,476	4,142	4,452	5,090	農林水産課
〃 イノシシ(頭)	559	779	1,420	1,624	926	751	1,155	1,383	1,809	1,340	988	891	1,624	944	農林水産課
〃 その他(頭)	125	95	85	138	85	122	101	183	308	435	645	1,373	1,922	1,921	農林水産課
バッファゾーン整備面積(ha)			19.34	18.93	17.4	26.49	15	15	15	0	0	0	0	0	農林水産課
箇所数(箇所)			4	5	6	5	3	5	5	0	0	0	0	0	

行動指針 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります

(1) 大気汚染の防止

- ①大気汚染物質の発生防止を指導、啓発
- ②廃棄物等の野焼き防止を指導、啓発
- ③公共交通機関の利用を促進
- ④アイドリングストップなどエコドライブを推進
- ⑤粉塵の発生防止を指導、啓発

(2) 騒音・振動の防止

- ①基準を超える騒音、振動等の発生防止を指導、啓発
- ②保有車両を適正に点検、整備

(3) 悪臭の防止

- ①悪臭の発生防止を指導、啓発

- ②家畜ふん尿等の適正処理を指導、啓発

(4) 地盤沈下の防止

- 地下水の利用抑制を促進

(5) 工業等における適切な事業活動の推進

- ①公害の発生を防止し、監視や指導、啓発
- ②公害防止協定の締結により、公害の未然防止
- ③水質汚染・土壌汚染調査を定期的に実施公表

(6) 有害化学物質の適正な管理

- 有害化学物質の適正な管理を指導

(7) 光害の低減

- 光害の低減を検討

(8) 災害時の廃棄物処理

- 廃棄物処理に関する応援協定を踏まえ、災害時の廃棄物の適正な処理

(9) 備蓄物資の適正配置及び循環利用の啓発

- 備蓄物資の適正配備及び循環利用の啓発に努めます

(10) 災害に強い森づくり

- ①間伐材も含めた地元産木材の利用を促進します。
- ②土砂災害防止、水源かん養林など、森林の有する機能の維持増進
- ③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め、森林の保全

《行動指針 6 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
大気汚染の苦情受理件数(件)	6	6	9	9	5	15	5	11	20	11	12	13	10	6	生活環境課
J R 豊岡市民号利用者数(人)	208	147	142	107	75										都市整備課
市街地循環バス(コバス)利用者数(人)	37,257	37,688	40,744	47,175	47,796	48,216	47,438	50,395	51,066	56,100	57,889	52,574	48,254	41,634	都市整備課
市営バス(イナカー)利用者数(人)		51,729	93,956	81,736	77,815	79,065	74,543	59,496	58,102	59,130	59,459	53,622	47,332	43,404	都市整備課
市職員「e通勤」実施者数(人)		49	529	459	449	438	419	417	405	396	396	383	377	379	都市整備課
豊岡ノーマイカー参加者数(人)						1,181	2,133	1,415	1,697	1,584	1,565	1,445	1,193	758	都市整備課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
特定建設作業の届出件数(件)	717	644	619	511	549	528	636	520	395	433	431	645	648	481	生活環境課
騒音・振動等特定施設届出施設数(施設)	50	41	16	33	54	25	28	28	43	34	32	23	20	19	生活環境課
騒音・振動の苦情受理件数(件)	5	6	6	4	5	3	5	1	5	4	2	6	6	9	生活環境課
悪臭の苦情受理件数(件)	6	5	8	9	6	8	4	7	12	6	6	7	11	11	生活環境課
水質・土壌汚染苦情受理件数(件)	20	20	15	13	16	7	1	4	4	7	10	10	6	7	生活環境課

行動指針 7 地域の文化や景観を保全し、活用します

(1) 文化財の保護と活用

- ①文化財の保護活動
- ②開発する際には文化財を保護
- ③文化、歴史の講座を開催

(2) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

伝統行事や文化の継承を支援

(3) 芸術、文化活動の振興

芸術・文化活動の活性化を支援

(4) 地域の特色ある景観の保全

- ①歴史や伝統のある建物、景観を生かしたまちづくりを推進
- ②まちのシンボルとなる文化、歴史資源の観光への活用
- ③地域の特色ある景観の保全を促進
- ④開発時には、地域の景観に配慮
- ⑤地域の植生にあった植栽
- ⑥屋外広告物、自動販売機の設置の抑制を検討
- ⑦地域の地形、地質を考えた土地の利用を促進
- ⑧地域の風土に合った住宅の建設を促進
- ⑨地元産材など昔からあった素材の使用を促進

(5) 環境美化意識の高揚

- ①公共施設の緑化や花づくりを推進
- ②街路樹等の適切な管理
- ③地域の緑化や花づくり活動を促進
- ④庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組みを促進

(6) 緑豊かな公園の整備

- ①子どもから高齢者までが安心して遊び、憩えるように配慮
- ②自然環境、地形、地域の植生に配慮
- ③開発にあたっては公園の整備

《行動指針 7 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
遺跡確認調査件数(件)	7	7	5	5	3	12	8	12	13	16	12	11	9	7	文化財室
文化財防災訓練数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	文化財室
文化財パトロール数(件)	—	—	226	162	177	107	121	112	125	—	—	—	—	—	文化財室
文化財保護補助金交付数(件)	12	13	14	13	9	7	12	5	6	7	6	4	8	4	文化財室
〃 補助金額(万円)	16	30	518	251	193	33	77	608	1,392	112	24	6	43	954	文化財室
事業に先立つ埋蔵文化財調査数(件)	14	6	9	6	6	8	3	3	14	14	10	11	13	8	文化財室
発掘調査現地説明会数(回)	—	2	1	1	1	0	0	2	1	2	0	0	0	1	文化財室
但馬国府・国分寺館公開講座(講座)	6	3	4	3	12	11	16	19	11	19	19	5	5	5	文化財室
〃 参加者数(延べ)(人)	332	290	552	238	389	248	417	323	305	643	770	124	147	28	文化財室

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
日本・モンゴル民族博物館体験講座数(講座)	12	10	23	16	10	7	8	11	9	7	8	8	23	34	文化振興課
〃 参加者数(延べ)(人)	94	70	344	162	112	82	94	140	106	169	207	175	137	356	文化振興課
伝統芸能伝承事業補助数(件)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0			文化振興課
〃 補助金額(万円)	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	81	0			文化振興課
豊岡市美術展出品数(点)	6,893	6,829	6,394	6,281	6,337	6,422	6,316	6,111	5,970	5,925	4,037	3,201	3,016	2,804	文化振興課
〃 入場者数(人)	10,876	10,644	9,351	9,393	9,411	10,041	9,202	9,116	9,652	9,041	8,503	8,805	9,392	10,381	文化振興課
入館者数(出石永楽館)(人)		未計数	14,733	16,370	14,191	15,102	17,751	18,066	25,263	22,316	21,085	27,967	25,622	9,083	出石・地域振興課
〃 (歴史博物館)(人)	9,204	9,034	10,030	9,512	8,007	8,345	7,727	8,090	8,319	7,120	7,225	6,596	6,085	2,613	文化財室
〃 (日本・モンゴル民族博物館)(人)	17,136	16,848	14,591	11,623	10,553	11,755	10,657	10,017	9,840	9,885	13,367	10,852	10,244	4,963	文化振興課
〃 (市立美術館-伊藤清永記念館-)(人)	14,662	12,368	15,582	5,497	6,440	6,834	8,653	9,827	8,350	7,108	10,009	9,874	6,583	5,036	文化振興課
〃 (植村直己冒険館)	36,849	31,109	28,835	25,259	30,900	22,866	25,062	26,999	26,051	22,651	22,362	23,992	17,714		生涯学習課
自主事業入場者数(豊岡市民会館)(人)	9,448	6,018	8,949	8,066	7,175	5,999	9,262	10,297	8,993	5,783	8,590	7,987	9,600	2,217	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	1,974	1,790	1,307	1,707	1,260	726	1,295	782	628	290	982	0	0	0	出石・地域振興課
使用者数(豊岡市民会館)(人)	142,938	113,173	108,517	110,204	115,611	107,932	88,071	80,889	94,591	85,745	86,001	99,258	73,118	28,990	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	18,193	20,148	20,662	22,769	17,732	17,017	12,915	19,312	17,014	21,211	16,725	6,565			出石・地域振興課
〃 (多目的室)(人)													2,468	2,000	出石・地域振興課
〃 (豊岡市民プラザ)(人)	105,106	107,005	104,758	113,184	120,973	128,437	123,746	116,678	109,734	119,528	129,245	130,402	129,278	47,234	生涯学習課
出石伝統的建造物群保存事業補助数(件)		4	5	7	5	6	5	4	5	4	5	3	4	4	出石・地域振興課
〃 補助金額(万円)		1,773	2,258	3,581	2,996	3,221	2,331	2,366	2,450	2,490	2,473	1,673	2,653	2,401	出石・地域振興課
ジオパークジオガイド養成講座(回)				4	2	20	11	2	1	0	1	1	0	1	大交流課
小・中・高生ジオ講座受講者(人)				277	134	60	164	32	0	109	550	198	164	357	大交流課
屋外広告物の許可数(件)	87	219	125	174	157	219	178	183	157	160	168	159	177	135	都市整備課
景観形成事業助成数(件)	5	9	3	8	3	3	5	4	1	6	2	1	1	1	都市整備課
〃 助成金額(万円)	98	162	44	1,055	79	93	128	79	17	773	155	25	11	25	都市整備課
花のある道づくり事業植栽花苗数(箇所)	29	29	27	28	27	27	27	27	22	22	22	22	22	18	生活環境課
「ヤナギ」植栽管理数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	生活環境課
「サツキ」植栽数(箇所)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	生活環境課
花苗の配布数(団体)	179	209	212	163	161	161	142	110	128	111	111	125	214	226	生活環境課
花と緑のまちづくり事業数(回)		5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
都市公園数(箇所)	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	都市整備課
開発行為による公園数(箇所)	51	52	52	52	52	52	52	52	53	53	53	53	54	54	都市整備課

行動指針 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます													
(1) 河川等での環境美化活動 地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進促進							(4) 環境に取り組む団体の育成 地域で環境活動に取り組む団体や個人の育成・支援						
(2) 地域における環境教育の推進 リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進							(5) 地域コミュニティの取組みへの支援と情報提供 地域コミュニティの取組みを支援し、情報を提供						
(3) 環境を考える事業の実施													

《行動指針 8 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
コウノトリ文化館市民講座開催回数(回)	4	10	5	3	4	2	4	1	14	22	17	26	38	47	コウノトリ共生課
マイバグ啓発活動実施店舗数(件)	1	11	13	6	8	4	3	3	1	1	1	1	1	1	生活環境課
地域力再生補助(環境活動支援)件数(団体)	6	3	5	2	2	2	2	0	0	1	1	1	1	1	コミュニティ政策課
〃 補助金額(万円)	202	56	48	37	23	38	43	0	0	50	50	50	50	50	コミュニティ政策課
市民エコポイント発行数(P)						24,888	49,689	41,800							環境経済課
企業エコポイント発行数(P)						294.5万	483.5万	545.5万							環境経済課
健康・環境エコポイント制度(※1)															
健康ポイント手帳交付者数(人)									4,429	4,860	5,677	5,716			健康増進課
環境行動実践者数(人)									281	535	613				環境経済課
健康ポイント引換者数(人)(※2)													3,440	4,384	健康増進課

※1 市民エコポイントと企業エコポイントは、2015年から健康ポイントと統合されました。

※2 制度のリニューアルにより、2019年度から手帳、シート、スマホアプリのポイントを交換した延べ人数になりました。

行動指針 9 環境意識を高める学習・教育を進めます													
(1) 環境を考える事業の実施 ①市民向けの環境学習講座を実施 ②環境問題をテーマにした各種イベントを実施							(2) 環境に関する学校教育の推進 小中学校において、環境に関する学校教育を促進						
							(3) ふるさと教育の推進 市内小中学校において、「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を 共通の課題に、豊岡の世界に誇れる「ひと・こと・もの」に学ぶ授業						

《行動指針 9 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
エコハウス暮らしの講座等実施(回)				8	8	7	1	0	0	0	0	0			環境経済課

取組みの内容		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
出前講座(環境学習関係)実施回数(回)		6	9	22	23	14	15	71	20	10	12	11	18	15	18	秘書広報課
〃 受講者数(人)		257	247	652	703	332	564	3,987	762	188	299	436	406	343	465	秘書広報課
子どもの野生復帰大作戦参加者数																
(子どもコース)(人)		155	198	235	152	99	99	83	67	62	61	55				生涯学習課
(指導者養成)(人)		32	12	30	—	—	24	11	0	—	—	—				生涯学習課
(親子コース)(組)		—	—	44	67	52	51	61	66	45	40	42				生涯学習課
(野外キャンプ)(人)		—	159	138	62	72	73	91	115	57	—	91				生涯学習課
(周年型体験プログラム)(人)													80	99	98	生涯学習課
(単年型体験プログラム)(人)													86	80	95	生涯学習課
(成人対象体験プログラム)(人)													25	28		生涯学習課
地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育実施校数																
(小学校)(校)		17	20	22	22	22	23	23	29	23	23	27	29	29	29	こども教育課
(中学校)(校)		4	4	4	4	4	7	7	7	8	6	6	4	4	4	こども教育課
地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数																
(小学校)(校)		8	30	30	30	30	30	30	29	18	21	25	28	29	29	こども教育課
(中学校)(校)		1	0	1	1	1	4	4	5	7	4	7	8	9	9	こども教育課
自然学校参加者数(人)			870	862	851	847	828	762	749	747	702	750	718	718	725	こども教育課
農業体験(稲作)実施校数(小学校)		13	13	14	20	20	22	20	19	18	20	19	23	21	10	こども教育課
里山観察等実施校数(小学校)			9	8	7	7	20	16	14	18	16	15	26	15	15	こども教育課
川の体験活動実施数(小学校)(校)			11	17	19	22	29	27	28	29	29	28	27	27	25	こども教育課
小・中学校フイフティ・フイフティシステムによる削減効果(2014年からシステム見直しのため2010年比)※2013年度以前は2005年度比(%)		-5.2	-3.9	-10.7	-7.7	-10	-8.6	-11.2	-7.4	-8.2	-7.6					教育総務課
出張！田んぼの学校(回)				3	3	4	11	16	20	24	21	15	16	15	5	コウノトリ共生課

行動指針10 環境に関する知を集積し、活かします

(1) 環境をテーマとした連携の強化・拡大

- ① 高等教育機関を核とした研究者や企業の交流を促進
- ② 異業種の交流を促進
- ③ 環境経済型企業の育成・誘致推進

(2) 環境を研究する機関との連携・協力

- ④ 事業者と研究者をつなぎ、産学連携を効果的に推進
- 環境を研究する機関との連携・協力の推進

(3) 環境に関するオピニオンリーダーとしての国内外への情報発信

- 先進的な取組みを、国内外へ発信

《行動指針10に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
産学連携協定締結数(校)			1	1	1	0	0	0	0	0	0	0			環境経済課
稽古堂塾参加者数(人)								20	23	23	24	24			環境経済課
コウノトリ野生復帰学術研究補助(件)		4	9	8	5	7	7		6	—					コウノトリ共生課
高校生等地域研究支援補助金(件)										2	3	7	5	6	コウノトリ共生課

行動指針11 ごみの減量、再資源化を進めます

(1)ごみの減量化

- ①ごみの適正な分別を促し、ごみの減量化を推進
- ②レジ袋削減、マイバッグ持参運動を推進
- ③パンフレット、チラシ等の削減を推進
- ④5 R運動を推進
- ⑤レジ袋の有料化、包装の簡略化など環境への負荷を低減する販売方法を促進
- ⑥環境への負荷を低減する製品の開発を促進
- ⑦ごみや汚泥の広域処理計画推進

(2)ごみの再資源化

- ①地区、PTA等による資源ごみの回収活動を支援
- ②再生資源利用製品を購入
- ③学校での児童・生徒によるリサイクル活動を推進
- ④量販店等による空き容器、牛乳パック、食品トレーなどの拠点回収を支援
- ⑤家庭から出る生ごみたい肥化を支援

(3)ごみの減量化・再資源化のための啓発

- ①ごみの減量化・再資源化のための啓発

(4)事業活動による廃棄物の適正処理

- ①産業廃棄物、建設廃棄物の適正な処理を促進
- ②建築廃材の再利用を促進
- ③農業廃棄物のリサイクルを促進
- ④食品廃棄物の回収システムを検討
- ⑤食品廃棄物の堆肥化を促進

《行動指針11に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
ごみ搬入量(t)	32,610	29,448	28,374	27,796	28,736	28,944	28,362	28,568	28,934	27,185	26,776	26,603	26,806	26,219	生活環境課
〃 12年度(42,878t)との比較(%)	-24	-31	-34	-35	-33	-33	-34	-33	-32	-36	-38	-38	-38	-39	生活環境課
レジ袋有料化等協定数(件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
資源ごみ集団回収量(t)	3,921	3,646	3,451	3,422	3,242	3,076	3,062	2,922	2,718	2,526	2,448	2,344	2,243	1,866	生活環境課
〃 補助金申請団体数(延べ) (団体)	680	657	664	662	635	634	644	651	663	655	672	655	646	583	生活環境課
〃 補助金額(万円)	2,335	2,171	2,054	2,037	1,926	2,120	2,114	2,017	1,875	1,740	1,687	1,617	1,544	1,282	生活環境課
資源ごみ常設回収庫補助件数(地区)	1	2	3	4	0	1	1	2	0	1	1	3	0	1	生活環境課
市単価契約物品のうち再生利用品(品目)	108	97	101	94	95	89	89	89	89	89	90	92	94	98	総務課
〃 グリーン購入法適合品(品目)	66	53	60	52	78	88	67	69	69	69	70	72	75	78	総務課
〃 エコマーク付商品(品目)	45	39	81	27	28	57	50	53	53	53	54	60	63	70	総務課
学校資源ごみ回収実施校数(小中学校)(校)	10	12	28	28	34	36	35	29	36	33	33	34	34	34	こども教育課

[illegible]

省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます

(1) 日常生活における環境負荷の確認

- ①家庭での節水や節電など環境行動を普及啓発
②環境家計簿を普及啓発

(3) 自動車から排出する二酸化炭素の削減

- ①アイドリイングストップなどのエコドライブを促進
- ②京阪神等遠隔地へは公共交通機関利用を促進
- ③低公害車・低燃費車などいゆるエコカーを購入
- ④保有車両を適正に点検

(4) 省エネルギーの推進

- ①省エネルギーを考えて施設や設備を整備
②LEDなど省エネルギー対応の器具を購入
③使用しない電気機器は電源を切る
④冷暖房温度を適切に設定（夏28度、冬19度）

《行動指針12に関する豊岡市の取り組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
市施設への太陽光発電設置数(箇所)	1	5	3	26	3	3	5	1	1	6	0	1	0	0	地球温暖化防止対策室
〃 設置量(kw)	4.7	18.1	8.4	399.7	29.1	694.5	1023.5	5.5	823.2	324.4	0	35	0	0	地球温暖化防止対策室
住宅用太陽光発電設置補助件数(件)	23	34	66	73	78	88	77	30	29	31	37	24	24	28	地球温暖化防止対策室
〃 設置量(kw)	87.68	121.16	254.41	301.36	350.53	407.65	343.08	138.41	147.19	161.78	201.13	124.01	113.10	151.86	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)	412	586	1,199	1,288	1,449	1,191	1,003	335	341	446	526	356	403	595	地球温暖化防止対策室
エコアクション21認証企業(社)							5	5	5	6	2	0	0	1	環境経済課
アイドリングストップ啓発回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
街灯のLED化補助(件)						248	302	565	596	1,092	1,362	1,427	1,023	1,008	生活環境課
但馬空港飛行機利用助成人数(人)	11,508	11,292	13,007	12,582	12,134	10,387	12,367	12,457	11,379	11,507	12,397	15,756	14,934	4,492	都市整備課
〃 助成金(万円)	6,515	6,872	6,468	5,963	5,749	5,019	5,819	6,046	5,711	5,646	5,919	7,274	6,812	2,002	都市整備課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
低公害車・低燃費車購入台数(台)	27	11 49.4	3	—	—	—	—	—	—	0	0	0	1	1	総務課
公用車 低公害車・低燃費車割合(%)			53.8	57.7	64.0	62.5	70.5	70.0	68.7	65.9	80.9	82.6	82.9	83.6	
省エネ器具購入数(件)	27	11	34	37	17	11	13	12	19	45	46	40	10	7	総務課
市の施設でのCO2削減(2007排出量比)(%)				5.10	8.04	8.44	9.76	12.91	14.51	19.86	22.37	24.76	26.04	30.36	総務課
校園庭芝生化事業の実施(校園)			7	14	9	9	5	2	0	0	0	0	0	0	教育総務課
校園庭芝生化事業の実施(m ²)			15,880	32,220	29,880	28,440	15,520	3,650	0	0	0	0	0	0	教育総務課

行動指針13 地産地消を進めます

(1) 安全、安心な農林水産物の地元消費

- ①地元でとれた安全・安心な農林水産物を学校給食に使用
- ②地元でとれた安全・安心な農林水産物の地元消費を促進
- ③食品の産地表示促進

(2) 消費者と農林水産業者との交流

消費者と農林水産業者との交流を促進

(3) 食生活の向上と食育

- ①エコクッキング(環境にやさしい料理法)などを普及啓発
- ②旬の野菜や伝統食の良さを普及啓発
- ③食に関する情報を提供

《行動指針13に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
学校給食での豊岡産野菜利用率(%)	27.6	28.6	31.1	28.0	26.8	23.1	22.8	28.9	27.1	22.0	25.2	28.8	37.1	30.2	教育総務課
学校給食での米飯給食回数(週5日のうち)															
市内産米(回)	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	教育総務課
うちコウノトリ育むお米(回)	0	0	1	1	2	2	2	2	3	5	5	5	5	5	教育総務課
コウノトリの舞認証農産物数(品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	31	26	23	20	23	農林水産課
加工品数(商品)			1	2	2	5	6	6	6	5	2	2	2	4	農林水産課
マロニエの里認証商品数(商品)	47	46	23	21	21	21	15	20	14	0	0	0	0	0	日高・地域振興課
旬を楽しむ会実施回数(回)								2	2	2	1	0			環境経済課
延べ参加人数(人)								200	200	200	100	0			環境経済課
市広報での食育PR回数(回)			6	6	4	4	3	0	0	0	0	0	1	0	健康増進課
成人向け栄養改善教室実施回数(回)	58	57	80	96	201	240	192	179	138	137	126	211	207	119	健康増進課
受講者数(延べ)(人)	988	810	1,483	1,969	2,967	2,419	2,033	2,165	1,991	1,995	1,828	2,913	2,396	1,003	健康増進課
食育教室(保育園・幼稚園)実施回数(回)	14	17	32	36	34	36	33	38	36	36	36	29	28	29	健康増進課
受講者数(延べ)(人)	420	589	767	874	745	861	919	1,193	1,056	1,077	969	570	493	476	健康増進課
(未就学児・保護者)実施回数(回)	24	13	23	78	77	80	40	33	36	45	36	33	33	24	健康増進課
受講者数(延べ)(人)	357	175	365	405	546	611	550	583	498	724	629	584	551	232	健康増進課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
離乳食講習会実施回数(回)	88	90	88	90	90	90	87	87	87	88	89	89	88	88	健康増進課
" 受講者数(延べ)(人)	1,362	1,535	1,326	1,478	1,344	1,458	1,373	1,220	1,175	1,235	1,147	1,029	956	821	健康増進課
幼児食講習会実施回数(回)		123	123	106	106	106	98	97	96	94	94	91	87	84	健康増進課
" 受講者数(延べ)(人)		800	1,512	1,444	1,519	1,435	1,517	1,316	1,362	1,222	1,151	1,144	1,059	911	健康増進課
子育てセンター食育事業回数(回)	33	21	14	22	23	18	18	23	36	52	50	50	54	13	こども育成課
保育園料理教室等開催回数(園)	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	25	26	23	12	こども育成課

・食品の産地表示促進(コウノトリの舞認証農産物)は行動指針3に記載
・農薬や化学肥料に頼らない農産物は行動指針3に記載

行動指針14 環境と経済の共鳴を進めます

(1) 豊岡型地産地消の推進

- ①農薬や化学肥料に頼らない農産物のブランド化を支援
- ②朝市や農林漁業体験活動を支援
- ③エコ商品開発、リサイクル等の環境経済型の事業(エコビジネス)を促進

ム推進

- ②市民によるツーリズムガイドの養成

(3) 環境経済型企業集積

- ①環境経済型企業の育成・誘致の推進
- ②環境経済型の技術開発やゼロエミッションに取り組み企業を支援
- ③異業種交流を促進

(4) 環境ビジネスの創出支援

(2) コウノトリツーリズムの展開

- ①コウノトリ、自然、歴史、文化資源等を生かした多様なツーリズム

排出されたごみを可能な限り再利用する循環型の経済活動を支援

《行動指針14に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	関係部署
直売所設置数(件)	36	42	40	40	39	39	39	39	39	39	34	34	28	24	農林水産課
ファーマーズマーケット設置数(件)	5	5	6	6	7	6	6	6	6	6	1	1	1	1	農林水産課
コウノトリ文化館入館者数(人)	455,373	417,159	365,349	301,575	297,056	305,712	304,348	297,232	285,449	230,734	232,751	218,704	202,230	55,692	コウノトリ共生課
ツーリズムガイド利用者数(人)		8	269	674	626	279	217	206	281	247	187	133	103	0	コウノトリ共生課
環境経済事業推進補助金(件)	4	5	8												環境経済課
" 補助金額(万円)	425	499	661												環境経済課
技術革新等支援事業補助金(件)				7	6	8	2	4	1	4	4	2			環境経済課
(環境経済型関係) " 補助金額(万円)				1,036	1,329	1,371	321	330	303	505	751	379			環境経済課
環境経済認定事業数(件)						35	6	5	10	6	8	6	3	2	環境経済課

第5部 前年度環境審議会意見の反映状況

（市の取り組み）

■環境審議会意見の反映

環境報告書で示された環境審議会の意見を、市がどのように施策に反映させたかを整理しています。

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

■森林の適切な管理による防災機能の維持について

【農林水産課】

- ・台風等による山地崩壊の懸念から、市内各集落でも裏山からの倒木や土砂崩れへの対策意識が広まっています。そこで、地区からの要望等を取りまとめ、県民緑税を活用した「緊急防災林整備」や「里山防災林整備」を計画的に進めています。整備が完了した集落からは身近な山林が綺麗に刈り込まれ、見た目にも安心感が得られたと好評いただいております。森林環境の保全対策として有効であることから、引き続き県と連携しながら PR と事業実施に努めます。

■森林資源を有効に活用していくためのさらなる施策について

【農林水産課】

- ・木質バイオマスを循環エネルギーとして利活用していくため、朝来バイオマス発電所への間伐未利用材全量供給を継続して進めています。これに必要な設備整備として、市内の林業事業者が行う林地残材の集積と搬出に必要な設備や車両等の導入に対し、市は支援を行ってきました。今後は、林業担い手の裾野を広げていくことを目的に、起業に必要な支援等を模索し、検討します。

【コウノトリ共生課】

- ・重要な CO2 吸収源である森林を保全するため、間伐材等を利用した木質バイオマス機器の設置補助を行うなど、継続的に森林資源の有効活用を促しています。引き続き、補助制度の周知に努めるとともに、より導入しやすい制度設計や新規補助制度等を検討し、豊かな森林の生育と保全につなげます。

■適切な山林管理に向けた森林環境譲与税の活用について

【農林水産課】

- ・国の造林補助事業を活用し、主に北但東部森林組合が森林所有者からの委託を受け、間伐を中心とした保育施業を継続的に実施しています。2020 年度の除間伐実績は 293ha でした。また、県民緑税を活用した「針葉樹林と広葉樹林の混交林整備」では、災害に強い森づくりの一環として気象災害に弱いとされる高齢の人工林を部分的に伐採し、その跡地に広葉樹等の多様な樹種を植栽することにより、風倒木被害防止と洪水防止機能が期待できる健全な森林への更新を進めています。
- ・森林の経営管理を進めるに当たって、不在村所有者の森林の増加、所有者不明や境界未確定の森林の存在等が大きな課題となっています。そこで、国の「森林経営管理制度」を活用し、経営管理が行われていない森林について、市が森林所有者の委託を受け経営管理することや、林業経営者に再委託することにより、林業経営の効率化と森林の管理の適正化を進める予定としています。

目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

■農林業被害の増加を防ぐ対応、周知について

【農林水産課】

- ・〔農業〕市有害鳥獣対策員 2 名に加えて、2019 年 10 月から県版地域おこし協力隊制度「地域再生協働員」を設置し、有害鳥獣対策の体制を強化しているところです。
シカ対策として、2014 年度からシカの捕獲に特化した 1 期 3 年の「シカ有害被害撲滅大作戦」に取り組んでいます。2020 年度からは、作戦の第 3 期目（2020 年度～2022 年度）となり、銃猟とわ

な猟によるシカ捕獲専任班を中心に、捕獲困難地域で活動する流し撃ち部隊の創設等の新たな取り組みも行い、市有害鳥獣捕獲班と密に連携しながら、積極的な捕獲を進めています。その他、国県の補助事業を活用し、広域的な防護柵の設置を支援しています。市単補助事業では、集落における小規模の防護柵や檻、個人の畑を囲う防護柵等の資材費の補助を行っています。加えて、有害鳥獣対策に関する出前講座のメニューも用意しています。

- ・〔林業〕野生鳥獣被害対策では、「個体数調整」「被害の防除」「生息環境管理」の3つを総合的に推進することが重要と考えます。「個体数調整」については、シカ等の計画的な捕獲により一定レベルの個体減が図られています。これと並行した「被害の防除」では、森林整備と併せて行う防護柵等の被害防止施設の整備も進められつつあります。さらに、「生息環境管理」については、農地に隣接した森林の間伐等により、見通しを良くして、鳥獣が出没しにくい環境（バッファゾーン）をつくるとともに、針広混交林整備による広葉樹林化も効果的に進めています。今後の対策実施に当たっても、行政機関や森林所有者、森林組合等の関係者が情報の共有化や役割分担の明確化を図りながら連携して、地域が一体となった広域的な取組を行うことが重要と考えます。

■捕獲された有害獣の命を無駄にせず、有効活用するための取組や連携について

【農林水産課】

- ・捕獲個体の有効活用について、食肉処理加工施設が考えられますが、施設運営には採算が取れることが条件となり、多くのリスクを伴うことから、市が主体となって処理加工施設を整備し、運営する考えはありません。そのため、今後も現状のとおり捕獲を続けていく考えです。
なお、市内には2つの民間の処理加工施設が稼働していますので、捕獲個体の利活用が図られるよう、要請があれば捕獲者に対して情報提供を行っていきたいと考えます。

■森林の維持に向けた里山の利用促進について

【生涯学習課】

- ・子どもの野生復帰事業のプログラムは、豊岡の自然をフィールドに実施しています。2020年度は、秋に「登山チャレンジ」と題して神鍋山・大杉山の登山を実施しました。また冬には「山の探検隊」と題して大師山自然公園キャンプ場で雪山デイキャンプを実施しました。

【農林水産課】

- ・里山整備に対する地域の関心が高まりつつあるなか、地域住民が自主的に行う森林整備を支援するため、県民緑税を活用した「住民参画型森林整備」の活用を紹介、実施しています。この取組を通じ、森林の果たす役割や森林整備の必要性などについて市民の理解促進を図り、森林環境教育や植樹活動といった木育活動に繋がることを期待しています。
また、公益社団法人兵庫緑化推進協会が実施する「森と緑とのふれあい支援事業」には、森林における学習体験活動における材料費や指導費等に対し支援するメニューもあり、こうした事業との連携や活用も視野に入れたうえでの市民講座等の実施も、今後検討します。

【コウノトリ共生課】

- ・市立加陽水辺公園では、隣接する湿地や里山の一体的な利活用を促進するため、公募型プロポーザルにより、同公園が“自然を活かした体験的な学びの場”の拠点となるような利活用事業を実施する事業者を選定しました。2021年度から、選定された事業者と地元地域や行政が連携し、環境教育や自然体験イベントの実施、里山の整備といった事業を展開していく予定です。

【こども教育課】

- ・小学校3年生の環境体験学習の一環として、里山での体験学習を実施している学校や、1、2年生の生活科の学習で、里山でのどんぐり拾い等の季節ごとの自然にふれあう活動を計画的に実施している学校があるなど、学校の実情に合わせた里山での取組が行われています。

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

■学校給食で地元食材が使用されていることの周知について

■保育園やこども園での無農薬・減農薬の地元産農産物の使用促進について

【農林水産課】

- ・給食で使用されているコウノトリ育む農法で栽培された地元産米に対する児童の理解を深めるため、生産者と市が共同で小学校に出向き、授業を行っています。また、「コウノトリの舞」認定農産物（たまねぎ・にんじん・いも類）を市内給食センターに出荷する生産者を支援するため、水田活用の直接支払交付金において市独自の加算を行い、学校給食での安全安心な地元産農産物の使用促進を行っています。

【教育総務課】

- ・学校給食だより及び教育委員会だよりにて広報し、周知を図ります。地元食材の利用については「とよおか教育プラン実践計画」で、国の品目ベースではなく、市独自の野菜の重量ベースでの指標を設定しています。

■増え続ける休耕田のビオトープ化と環境学習の場としての利用について

【コウノトリ共生課】

- ・コウノトリの生息環境整備や地域の生物多様性保全を目的として、コウノトリ基金を活用し休耕田等をビオトープとして保管理を行っています。また環境学習の拠点としての湿地の重要性を高め、豊かな自然を活用した環境教育と地域の活性化に取り組んでいます。2020年度は、市内に29カ所、合計13.14ha（17小学校区に配置）を管理しました。今後も小学校区ごとに一定規模のビオトープが設置されるように取組みを進めていきます。

【農業委員会事務局】

- ・農業委員会では、遊休農地の発生防止・解消のため、農地パトロール、所有者への利用意向調査を実施していますが、鳥獣害の発生や過疎化・高齢化を背景とした農家の減少により、その増加傾向は止まらない状況にあります。このような状況の下、農地法等関係法令に従いながら、様々な支援制度を活用し、多様な主体により、ビオトープ化も含め、適切な農地の管理が進められるよう期待するところです。

【こども教育課】

- ・田んぼやビオトープなどの湿地は、コウノトリの大切なエサ場であるとともに、子どもたちが、生きもの調査等の体験学習を通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心を育てていく貴重な場としてとらえています。学校の実情や子どもたちの発達段階に合わせた活動を取り入れていければと考えています。

【コミュニティ政策課】

- ・地域コミュニティ活動のひとつとして、休耕田にビオトープを整備し、そこで生きもの調査や環境教室を行うなど自然に触れ合いながら環境学習ができる場として活用しています。

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がかきこえてきます

■間伐材を取り付けた鋼製漁礁の設置推進について

【農林水産課】

- ・鋼製魚礁は、冬季間での製作設置となることから、従来より間伐材の確保に苦慮しており、2019年度より間伐材の活用を見送っているのが現状です。

■子どもたちが遊べる水辺環境の維持や遊びの機会の提供について

【生活環境課】

- ・河川や海岸にあるごみの多くが上流からの漂着物であることから、不法投棄監視カメラや防止看板の設置、配布に努めています。また、2020年度には「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画策定委員会」を立ち上げており、世界的に問題となっているマイクロプラスチック問題の解決等につながるような実行計画を2021年度に策定し、行政や事業所、市民と一丸となり様々なアクションを行っていきます。

【農林水産課】

- ・市が委託している漁港の清掃と維持管理事業（委託先：田結区、竹野みなと愛護会）については、クリーン作戦など、区民全体に対し参加呼びかけを行っている取組みが含まれています。子どもたちにも参加が可能な活動がないか検討いただき、呼びかけを行っていただけるよう提案してまいります。

【生涯学習課】

- ・子どもの野生復帰事業のプログラムは、豊岡の自然をフィールドに実施しています。2020年度は、「沢登りチャレンジ」と題して阿瀬溪谷で実施しました。また「いかだ下りチャレンジ」と題して城崎ボートセンターを拠点に円山川で実施しました。「海の冒険隊」では竹野子ども体験村を拠点にいかだ作りや塩づくりにもチャレンジしました。「川の冒険隊」では但東町内の出石川で生きもの観察やタイヤチューブでの川下り、野外調理を行いました。

【コウノトリ共生課】

- ・河川等では、自然再生活動や清掃活動にあわせて、草刈りなどを行っていますが、安全面の配慮から河川全体で人が水辺に近づきにくい環境となっています。地域の人々が実施する自然再生活動や清掃活動にあわせて、人々が水辺に親しみをもてる環境づくりを働きかけるとともに、安全面に配慮しながら、小学校で実施する生きもの調査やコウノトリ KIDS クラブの活動等で河川等を利用していきます。

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

■ラムサール条約湿地の重要性の周知について

■地域の自然特性を知る機会の提供や、周知について

【コウノトリ共生課】

- ・ラムサール条約湿地として拡張登録されたエリアを含めた情報の整理を行い、市民（特に子どもたち）がラムサール条約湿地やその重要性について学ぶことができるツールの作成を検討しています。
- ・2011年度から、地域に“生きものの先生”が出張して生きもの調査や観察会を行う「出張！田んぼの学校」を実施しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で5件（131人）のみの実施でしたが、2018年度は13件（266人）、2019年度は14件（295人）実施されており、市民が自分たちの住む地域の自然の特性を知ることができる機会を創出しています。

【コミュニティ政策課】

- ・地域コミュニティ活動のひとつとして、川や田んぼでの生きもの調査や観察会、登山、ハイキング、農業教室等の地域の自然特性を知るためのイベントを行っています。

■外来生物の駆除・防除の取組み強化について

【コウノトリ共生課】

- ・戸島湿地や加陽湿地では、通常管理の中でミシシippアカミミガメ等の外来種駆除を実施しているほか、年に数回、ボランティア作業の機会に駆除活動を実施しています。また、特定外来植物のオオキンケイギクに対する注意喚起を兵庫県と連携して行っています。

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

■文化や行事を次世代につなぐ調査や情報発信について

【文化振興課 文化財室】

- ・人口減少に加え、新型コロナウイルスの感染拡大による行事の存続危機に際し、市立歴史博物館 Facebook を活用して地域の行事を紹介するなどしました。

【コミュニティ政策課】

- ・地域コミュニティ組織では、地域の伝統文化・行事を調査し、次世代へ継承していくための取組みとしてふるさとマップづくりやカルタづくり、まち歩きを行っています。

■重要な資料の収蔵庫としての廃校活用について

【教育総務課】

- ・「資料の収蔵庫」の規模に見合った他の施設の検討が必要です。学校跡地は、地域から、ふれあいの場、地域振興の場として活動を求める要望があるため、地域ニーズを踏まえながら、「未利用施設等の活用方針」に基づき、①市の事業、②公共的・公益的な団体による事業、③民間事業の順に利活用を検討することとなっています。また、民間事業となった場合は、利活用の事業アイデアや参加しやすい事業条件等をサウンディング市場調査により把握し、売却または貸付を行うこととしています。なお、施設が広大（教室棟、特別教室棟、体育館、グラウンド、プール等）であることから、大きさに見合った利活用の検討が必要であると考えています。

【文化財室】

- ・引き続き、空調を活用して温度・湿度の管理などに努めました。

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

■学校教育だけでは得られない自然体験の機会の提供について

【生涯学習課】

- ・子どもの野生復帰事業のプログラムは、豊岡の自然をフィールドに実施しています。2020年度は、「川の冒険隊」では但東町内の出石川で生きもの観察や、野外調理を行いました。

【コミュニティ政策課】

- ・地域コミュニティ活動のひとつとして、川や田んぼでの生きもの調査や観察会、登山、ハイキング、農業教室等のイベントやイベントと併せた清掃活動などの環境保全に取り組んでおり、子どもたちの自然体験の機会となっています。

【コウノトリ共生課】

- ・市内の小学4～6年生を対象に希望者を募り「コウノトリ KIDS クラブ」を結成しています。コウノトリ KIDS クラブでは、コウノトリや豊岡の自然について学び考えたことを発信できる子ども

を育てることを目的として、コウノトリ文化館や市内の大規模湿地などをフィールドに生きもの調査や保全活動を行っています。

- ・NPO 法人コウノトリ市民研究所に依頼して講師を派遣する「出張！田んぼの学校」や「小さな自然再生活動支援助成金」では、地域や団体が主催する生きもの調査や自然体験活動の支援を行っています。

【こども教育課】

- ・保護者、地域の方々、関係機関、学校が連携しながら円山川や学校の身近にある川での水質調査や生きもの調査を実施している学校があるなど、学校の実態に即した取組が行われています。今後も、児童生徒、保護者、地域の方々が一体になって身近な地域の自然にふれあう活動を推進していきたいと考えています。

■豊岡の豊かな自然に生息している生きものの可視化について

【コウノトリ共生課】

- ・市内の小学校で行っている生きもの調査では、田んぼの学校フィールドノート等を活用して、見つかった生きものの名前を確認し、その特徴を把握することによって、自分たちの身近な自然の中にいる小さな命を感じる学習を行っています。

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

■ごみの分別収集におけるごみ処理の流れと成果の周知について

【生活環境課】

- ・ごみ処理の流れについては、市内全戸配布している「家庭ごみの分別とリサイクルの手引き」で紹介しています。よりイメージしやすく、分別にご協力いただけるよう、市広報やホームページに掲載し、広く周知する方向で検討します。併せて、ごみ（資源）の回収量などの掲載も検討します。

■イベント時における生態系に悪影響を与える素材や使い捨て容器の使用回避について

【生活環境課】

- ・イベント（夏祭り、盆踊り及び秋祭り等）では繰返し使えるリユース食器を利用するように関係機関に働きかけます。特に本市が主催及び協賛など関係するイベントにおいて、安易に排出される使い捨て容器については収集しない方向で検討します。また、イベントを彩るゴム風船及びばらまき方式のイベントグッズなど、ごみになる可能性の高い製品の使用回避についても関係機関に働きかけます。

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

■市民が意識的に省エネに取り組むような仕組みづくりについて

【コウノトリ共生課】

- ・年に4回、市広報にて「エコなええことやってみよう！」のコーナーを設け、市民の方々にエコな暮らしの実践につながる話題提供を行いました。今後も継続して市広報での話題提供および活動実践の周知を行います。また、毎月1日が省エネの日と制定されていることから、広く省エネ活動を呼びかける取り組みを検討したいと思います。まずは手本となるよう、市役所内に地球温暖化対

策推進本部(仮称)を設置し、各部署での省エネや脱炭素に向けた取組や役割を明確化することで、市役所庁内における省エネの徹底に努めます。

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

■環境経済認定事業者や地元企業による地域の環境保全への貢献に対する、市民や国内外からの来訪者への周知について

【環境経済課】

- ・環境経済認定事業の紹介として、市HPへの掲載、JR豊岡駅改札前での展示、本庁総合受付ディスプレイでのPR画像の放映を行っています。また、市民や国内外からの来訪者へも、引き続き周知をしていきます。

【大交流課】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大によるインバウンドの激減等の影響もあり、大交流課として具体的に施策に反映できたものではありませんが、反転攻勢に向けて観光協会や宿泊事業者等において、それぞれ可能な対応を進めていただいているところです。
市としては、ポストコロナ社会における外国人観光客や事業者のニーズを把握するとともに、こうした動きを支援できる施策を検討していきたいと考えています。

第6部 2020年度の環境に関する取組みについて

豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や要望をまとめています。

取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分け、記号を付けています。また、市については、さらに主な関係課を載せています。

記号： **市** **市民** **事業者**

(1)「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

森林が持つ多面的な機能について、市民の理解が進むように、森林が提供する生態系サービス(※)の価値や具体例を引き続き周知していく必要があります。

(※)生態系サービス：生きものや自然の恵み

市

事業者

広葉樹は家具材としても価値があります。間伐等で切った木をバイオマスストーブ等の燃料資源としての活用に留めるのみでなく、家具などの木工用品としての利用価値を生み出すよう資源管理することで、森林の生物多様性を保全してください。

市

市民

事業者

森林環境の保全につながるビジネスが持続するよう、伐採～集積の各段階での個々の樹種の仕分けによる森林マネジメントサイクルの構築や付加価値化、人材育成や制度設計のサポート体制強化が求められます。

市

事業者

【主な関係課】

農林水産課
コウノトリ共生課

農林水産課

農林水産課
環境経済課

目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

有害鳥獣駆除数が高水準を維持しており、農林業への被害面積や被害額も減少していることから、対策がうまく行われていることがわかります。今後も同水準の捕獲圧を維持するとともに、市民による無意識の餌付け（規格外野菜の投棄や二番穂の放置、柿などの果樹の放置）をやめることの啓発や、どのエリアでシカの生息数や被害が多発しているかを具体的に周知するなど、さらなる対策を期待します。

市

市民

事業者

山にはツキノワグマやマダニなど人の命を脅かす危険な生きものもいます。行政は対策等の情報発信を適切に行い、市民は安易に山に入ったり、むやみに恐れて敬遠したりするのではなく、山の危険性や対処法を身につけたうえで、里山に親しむ活動をするのが求められます。

市

市民

【主な関係課】

農林水産課

農林水産課
コウノトリ共生課

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

お米や野菜の生産については、減農薬ではなく無農薬の栽培をさらに増やす取り組みが重要になります。そのために、「コウノトリ育む農法（無農薬）」申請に係る提出書類の簡略化や中小規模農家への補助制度の充実など、さらなる取り組みを期待します。

市

事業者

「コウノトリ育む農法」においては、生きものの退避場所となる「マルチトープ」を設置するなど、生きものとの共生という理念を意識したさらなる取り組みが求められます。

市

市民

事業者

【主な関係課】

農林水産課

農林水産課
コウノトリ共生課

地産地消は地元農家の持続性につながるだけでなく、輸送時の CO₂ 排出抑制による温暖化防止対策にもなります。地産地消を促進するため、市民や事業者の理解が進むよう、普及啓発に力を入れてください。また、市民や事業者など消費者のニーズから農地の利用を考えるという「地消地産」を進める仕組みづくりも大切な視点です。

市 市民 事業者

農林水産課
生活環境課

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な関係課】

海岸や河川の清掃活動が継続的に行われていますが、単なる「美化」や「クリーンアップ」で終わるのではなく、市民は「まずはごみを出さない」暮らし方をするという意識を持つことが大切です。

市 市民 事業者

生活環境課

観光地周辺にごみが多い傾向があります。市外から来られる方に対しても、ごみのポイ捨て禁止や分別マナーについて啓発を行うことが求められます。

市 市民 事業者

生活環境課
大交流課

河原に外来植物のシナダレスズメガヤが繁茂することにより、砂が堆積し、子どもたちの遊べる丸石河原がなくなりつつあります。

外来種対策や適度な浚渫など、遊びやすく親しみやすい河原環境が求められます。

市 市民

コウノトリ共生課
建設課

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な関係課】

各小学校区に絶滅危惧種が生息しています。それらの種を地元の小学生や各団体が一緒になって保全し、生息環境を再生していくことを期待します。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課
こども教育課
コミュニティ政策課

野外に生息するコウノトリの増加に伴い、餌生物が増殖する環境を人の手で創出する必要があります。また、けがをする個体が増えていることを伝え、市民や事業者に防獣ネットの適切な管理やワイヤーメッシュへの置換等の対策を進めるよう周知してください。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課
農林水産課

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【主な関係課】

昔からの伝統や文化を研究し、先人の努力や知恵を再認識する場や機会の創出が求められます。また、他地域から豊岡市に移住して来られた方々とも交流し、昔からの伝統を守りつつ、新しい伝統が作られていくことを期待します。

市 市民 事業者

コミュニティ政策課
生涯学習課
文化振興課
環境経済課

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事や祭りが中止となり、行事の再開が危ぶまれるものもあります。そうした行事や祭りの再開には十分な支援が求められます。

市 市民 事業者

コミュニティ政策課
文化振興課

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

ふるさと学習により、子どもたちが自然について学ぶ機会がありますが、副読本は「コウノトリ」に特化した記載となっています。子どもたちが里山の植物や動物など、様々な分野の「自然」について知る機会が必要です。

市

地域の生態系サービスから得られる文化や知恵(生物文化多様性)を知ることで、ふるさとへの愛着も湧きます。身近な自然から得られる恵み(栗ご飯や魚料理、どんぐりゴマやリースづくり等)を体感、体験できる機会が大切です。

市 市民 事業者

市内の全小学校区に水田ビオトープを設置する目標を早期に達成するため、引き続き、設置がない小学校区へ積極的に働きかけてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

文化振興課
生涯学習課
こども教育課
こども育成課

コウノトリ共生課

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

資源循環を考える際、繰り返し使用する「リユース」の観点も重要になります。イベント時にフリーマーケットやリユースマーケット(※)を開催するなど、「使わないから捨てる」のではなく、「必要な人に使ってもらう」循環が生まれることを期待します。

(※)リユースマーケット：不要なものを必要な方に譲るイベント

市 市民 事業者

適切なごみ処理や使い捨てプラスチックの削減は、資源の保護や温暖化防止にもつながります。買い物時のマイバッグ持参はもちろん、学校行事や地域の行事などでのペットボトル飲料の提供を廃止し、マイボトルの持参や使い捨て容器を使わないなど、官民あげての小さな行動の積み重ねが重要です。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課

生活環境課
こども教育課
コミュニティ政策課

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

豊岡市の運輸部門(車による移動)のCO₂排出量が多い現状にあります。電車やバスといった公共交通機関の利用、時差出勤や車の相乗りなど移動方法を考える啓発を強化してください。

市 市民 事業者

太陽光発電システムは設置して終わりではなく、日々のメンテナンスから撤去までを考慮した計画性が求められます。生物多様性や景観への配慮はもちろん、適切な管理計画のもと、導入されることを求めます。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課
都市整備課

生活環境課
都市整備課

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な関係課】

環境経済認定事業に認定されるメリットが求められます。認定事業の商品に対する関心を深め、後押しする機会の創出に期待します。

環境経済課

市

事業者

環境経済認定事業者同士の交流により、新たな商品の開発や相互啓発の推進につながると考えられます。連携事業の制度設計や交流の場を創出してください。

環境経済課

市

事業者

(2) まとめ

第2次豊岡市環境基本計画の推進4年目にあたる今回の評価は、「この調子でがんばろう」が8項目（目標像①②③⑤⑥⑦⑨⑩）、「もっとがんばろう」が2項目（目標像④⑧）という結果でした。「よくがんばりました」に該当する目標像はありませんでしたが、その大きな理由は、新型コロナウイルス感染症の影響のため「参加者数、利用者数」などに関する評価は適さないと判断して評価対象から外したことが考えられます。そのため、昨年度の評価では「よくがんばりました」だった目標像②⑦が、今年度は「この調子でがんばろう」になりました。

今回、「もっとがんばろう」となった目標像④は4年連続、目標像⑧は2年続けての評価となりました。目標像④については、その改善に向けて川沿いや海岸の清掃活動が地域住民やボランティアによって地道に続けられていますが、そうした活動の継続に加えて、外来種対策や適度な浚渫等による遊びやすく親しみやすい水辺環境を整備することを提案しています。川や海が美しくなることにとどまらず、市民が水辺に親しみ、そこで楽しく遊んでいる姿が目標像④の達成イメージだからです。

目標像⑧については、審議のなかで委員から、“地域コミュニティの行事などの際にリユースマーケットを開催するようにした”という発言があり、それを提案に取り入れました。リユースマーケットとは、不要なものを必要な方に譲るイベントのことですが、「使わないから捨てる」のではなく、「必要な人に使ってもらう」循環が生まれる場や機会を積極的に設けてもらいたいと考えています。

環境審議会としては、「もっとがんばろう」評価がなくなるような取組みを「豊岡市」「市民」「事業者」に切に期待します。

2021年12月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣			
	副会長	雀部 真理			
	委 員	内海 京子・木築 基弘・毛戸 勝			
		島崎 邦雄・菅村 定昌・土川 忠浩			
		戸田 勝之・中村 肇・西垣由佳子			
		野世 英子・洞田美津子・山下 正明			
		山田 博文			

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

表紙写真提供：渡辺 政

豊岡市市民生活部生活環境課地球温暖化防止対策室

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町 2 番 4 号

電 話 番 号：2 1－9 1 3 6（直）

F A X 番 号：2 3－0 9 1 5

E－m a i l：ondankaboushi@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：